

## 【目次】

- ・世界は自由の場であり、我々は物理法則という制限を設定して存在しているという可能性……[2ページ目]
- ・真理への気づきのプロセス ……[3ページ目]
- ・『眠れぬ夜に目醒めのお話を…』(著:中村 咲太)をおすすめしたい ……[4ページ目]
- ・全ては「ハイヤーセルフ、神」の創った「設定」である ……[7ページ目]
- ・現代の科学の時代において、宗教やスピリチュアルの精神を一般に伝える方法[9ページ目]
- ・ワネネス、純粹記憶、決定論、我々は役者 ……[10ページ目]
- ・支配的モナド、従属的モナドという概念から、知識不足な私が勝手に考察 ……[11ページ目]
- ・全ての未来の可能性、全ての頭で想像できるフィクションは「アイデア」として実在し、その中で現実化したものだけが「物質世界」に現象化する説……[12ページ目]
- ・「ソウルメイト」という概念について、自分なりに調べて考察 ……[13ページ目]
- ・スピリチュアリズムから見た心霊現象の歴史(系譜)を読んで、自分なりにまとめたメモ……[13ページ目]
- ・スピリチュアリズム入門を読んで、自分なりにまとめたメモ……[16ページ目]
- ・続スピリチュアリズム入門を読んで、その中の一部を自分なりにまとめたメモ……[21ページ目]
- ・宇宙は無であると同時に全てが存在する、できないを体験するために地球に生まれた……[23ページ目]
- ・スピリチュアルと仏教を比較して考えてみると ……[25ページ目]
- ・[旧記事]スピリチュアルのワークと世界樹との関係についての考察(+クンダリニー・ヨーガ) ……[26ページ目]
- ・お釈迦様はなぜ悟ったのか?について……[35ページ目]
- ・悟りとは……[37ページ目]
- ・TOLAND VLOG の動画から様々な情報……[39ページ目]
- ・封印された真実の歴史について ……[45ページ目]
- ・アメリカの預言書オアスペについて ※真実の歴史を知る鍵かもしれない……[70ページ目]
- ・ホピ族の伝承について ……[76ページ目]
- ・人類の起源、日本人のルーツについて……[83ページ目]
- ・宇宙種族の歴史について(『プリズム・オブ・リラ』) ……[88ページ目]
- ・オーストラリアの先住民アボリジニについて ……[96ページ目]
- ・70歳からの「幸せな過ごし方」【仏教の教え】の内容に感銘を受けたのでシェア[99ページ目]
- ・もののけ姫、千と千尋の神隠し、君の名は。、エヴァンゲリオンに隠された世界の真理……[100ページ目]
- ・クンダリニー・ヨーガのプロセスについて……[121ページ目]
- ・[旧記事]ヨーガ・スートラの内容について ……[124ページ目]
- ・ワイタハ族について ……[129ページ目]

【世界は自由の場であり、我々は物理法則という制限を設定して存在しているという可能性】

現実世界において、我々人類は「宗教」という設定を創ることによって、意味や目的を見出して生きている。

別の言い方をすると「意味や目的」という制限を自らかけることを望んで生きていると言っても過言ではない。

そして、それはおそらく、真我の世界においても同様のことが行われている可能性がある。

つまり、我々の真我は「物理法則」という制限をかけることを自ら望み、物理法則という設定を自ら創ることにより、存在を見出しているということになる。

真我の世界は、非二元の世界であり、この世界においては「全てを創造することができる、全てを設定することができる」世界。

非二元の世界は「自由」なのだ。

この自由の大海原の中にいる真我は、自ら「意味」や「目的」を見出すために、自らに「制限」をかけることを望んだ。

それが、マルクス・ガブリエルの言うところの「意味の場」であり、我々の真我は「物理法則」という意味の場」を創造した。

物理法則による宇宙以外にも、様々な設定の世界が存在する。

もしかしたら、魔法が使える世界も存在するかもしれない。

我々が想像できるフィクションは、実は全て存在するかもしれないのだ。

天界にいる存在は、天界という設定により創造された世界で生きている存在であり、

そう考えると、「世界を創造する際の設定の違い」なだけであり、その違いに優劣は無いと考えることもできる。

### 【真理への気づきのプロセス】

#### 1: 一番最初の状態

- ・今までの人生経験より得られてきた「その時代」の価値観、固定化された価値観を持っている状態。
- ・固定化された価値観と、言語だけで思考が行われている状態。

#### 2: 実はすでに真理に出会っているかもしれない、けどそれに気づいていないだけの状態

- ・真理を悟ろうと手に取った本、その中に実はすでに真理の断片が表されていることがある。
- けど、固定化された価値観を持っている状態であるために、それを素直に受け取ることができず、真理の断片を受け流してしまっている可能性がある。

#### 3: 様々な思想を学んでいくことで、少しずつ各思想の共通点が見えてきて、それと共に少しずつ固定化された価値観が無くなっていく状態

- ・様々な思想を学ぶことで、共通点が見えてきて、少しずつ感覚的に掴めていけるようになる。
- ・だが、その各思想はどれも「その思想を語った者が持つ価値観という着色」が入っていたり、「その思想が現れた当時の時代背景という影響」を受けていたりするため、実は完全な透明度の高い真理を語っている思想というのは存在しないのかもしれない。その各思想における矛盾に翻弄される時期も訪れる。

4: 真理は「言語」だけでは理解できない、とても「感覚的なもの」なんだという気づきが得られた状態

・様々な固定観念を取り除いていった先に、きっとその感覚的な悟りが待っているかもしれない。

・もしくは、瞑想による神秘体験により得られた感覚的な気づきが悟りに導いてくれるかもしれない。

(だが、神秘体験だけでは悟ることはできない。固定観念や煩悩が無い状態で神秘体験をすることで初めて悟れるのかもしれない。)

『様々な固定観念や煩悩を取り除いていった先にある、感覚的な気づきが真理への悟りである』

【『眠れぬ夜に目醒めのお話を…』(著:中村 咲太)をおすすめしたい】

●『眠れぬ夜に目醒めのお話を…』(著:中村 咲太)

<https://www.amazon.co.jp/gp/product/B09WHTTB7C/>

kindle で買って読みました。

凄く良い本でした。

実際に神秘体験の数々を経験してきた著者だからこそ、描けるものだと思いますし、この長くない絵本の中に、真理が凝縮されているような、そんな一冊でした。

難しい哲学や言葉による様々な宗教的な説明は、言葉だけで説明しようとするからどうしてもそれぞれ解釈の違いが生まれてくると私は思います。

その上、言葉だけでは伝わりきれない部分はどうしても生まれてきてしまうものだと思うのです。

それらの言葉の数々による長い本よりも、むしろこの絵本のほうが的確に真理を表しているのではないだろうか、そう思えてきます。

>君だって『宇宙そのもの』であり、無限の可能性そのものさ

>地球は宇宙の中でも、すごくエキサイティングなテーマパークさ  
自分が『宇宙そのもの』という事実を忘れて、『私は欠けている、私は力がない』とイリュージョンの体験をできるのだから

>この地球というテーマパークは、『宇宙そのものの自分』を思い出すことを体験できる、『目覚めの惑星』に生まれ変わっているところなんだ

また、『宇宙そのものの自分』を生きるための具体的な実践方法も描かれているところが、この本の大きな特徴だと言えます。

この著者は、YouTube に動画を投稿されていて、  
特におすすめの動画は、こちらのバリ島の旅の動画だと感じます。

【中村咲太のバリ旅】(前半) 2020年 目醒めのリトリート説明会 Movie  
<https://www.youtube.com/watch?v=bq14Pz1BvwY>

【中村咲太のバリ旅】(後半) 2020年 目醒めのリトリート説明会 Movie  
<https://www.youtube.com/watch?v=duEgFmZ9DVQ>

人と神との距離が近いバリ島において、実際にパワースポットを旅することで、感覚的な気づきがより深くなっていくような、  
動画を通してそのような感じがしました。

本来の私たちが思い出す旅といっても良いでしょう。

また、こちらの動画もおすすめです。

【縄文エネルギー】心に空白を作り宇宙と繋がる☆

<https://www.youtube.com/watch?v=99RXUDWXGWA>

内なる宇宙は可能性に満ちている【縄文人のスタンス】🌟 スピラボ・オフトーク(ラジオ)

[https://www.youtube.com/watch?v=YwZDF\\_qEeYg](https://www.youtube.com/watch?v=YwZDF_qEeYg)

【チャネリングのやり方🌀】本当はみんなチャネラーなんだよね🎵🌟「自分という宇宙」と対話する《内なる宇宙からのお手紙》

<https://www.youtube.com/watch?v=27UcLuuajp8>

【チャネラーが見えてる世界🌀】みんな、たくさんの宇宙を動かしてる🌟あなたは本当に素敵な存在なんだよ😊

<https://www.youtube.com/watch?v=AkRK7Rdq-VM>

～私個人の解釈～

私たち大半の人は、人生のほとんどの時間を「脳の表面的な思考」にフォーカスして生きている。

その表面的な思考の発生源のほとんどは、周囲をありのままに見れていない雑念から来る。

自分のフォーカスしている意識を、自分の身体という狭い領域ではなく、もっと広い領域にまでフォーカスする対象を拡張し、それら全てを自分だと思い、その上で「自分との対話」という意識を持つことで、本来の自己から来る創造性というものを発揮できるのだろう。

空白の時間を大切にするという真意は、ここにあるのだろうか。

我々は非常に「忘れやすい」生き物であり、日々の生活の中で膨大な数の思考の中で、どんどん見える世界がアップデートされていき、目まぐるしく変わっていく内側と外側の世界に翻弄されがちである。

その目まぐるしく変わる自分自身に翻弄されずに、本来の自己を常に忘れないようにするための時間が「空白の時間」のような、そんな解釈を私自身はした。

「空白時間」そのものを楽しむことが、実は凄く大切なのだろう。

そして究極的には、日々の生活そのものは特別「これをするのが正解」というものではなく、「生きたいように生きる」「やりたいことをやる」のスタンスで良いのだろう。

同じ「やりたいことをやる」の中でも、煩悩や雑念の多い状態で行う「やりたいこと」と、煩悩や雑念の無いクリアな心で行う「やりたいこと」との違いであり、そのための方法論や修行法が、宗教やスピリチュアルで言われている方法論だったりするのだろう。

人生の目的は、『自分自身で設定するもの』であり、外に目的は存在しない。外に存在するのは、自分で目的を設定するための「仲間」である。

さらに言うと、外に存在する仲間は、「自分自身の分身」である。

**【全ては「ハイヤーセルフ、神」の創った「設定」である】**

シャーマニズムの世界や、神話の世界の中に、「天空神」「地母神」という概念がある。

これをそのまま純粋に解釈するなら、地母神は「地球そのもの」であり、天空神は「宇宙そのもの」もしくは「宇宙をさらに超えた根源」とも捉えられる。

そして、天空神と地母神が分かれたのは農耕文化になってからであり、狩猟文化の頃は天空神も地母神も同じ「原地母神」という概念であった。

たしかに、地球も宇宙の一部であり、地球と宇宙を分けているのは人間のつくり出す概念によるものである。

そしてそれはおそらく、ハイヤーセルフ、神自身が行った「設定」でもあるのだろう。

天空神、地母神という概念をハイヤーセルフ、神が設定し、その設定により、さらに「善と悪」という概念の設定も創造され、  
「イニシエーション」という概念や、「解脱」という概念もハイヤーセルフ、神自身により設定された。

ハイヤーセルフ、神自身が設定したことにより、その無意識が人間に送られ、そして人間は実際に宗教としてこのような概念を創り出していった。

これらすべては、ハイヤーセルフ、神自身が行った設定であり、それは「自分自身の存在感を見出すため」の設定であった。

そして、もともとは「天空神」も「地母神」も同じ「原地母神」という1つの存在であり、善も悪も無い、ワンネスだったのだよという「本来の自己」を思い出すプロセスを体験するための設定が、今までの世界の歴史の展開そのものであったという、そういうことなのだろう。

我々は地母神の創造性の流れの中で生きていて、我々の抱く真理は、我々地球人から見た真理である。

そして天空神の創造性の流れの中で、天上世界で生きている高次元の存在も同様に存在し、  
彼らの持つ真理は、彼らから見た真理であるといえる。

そして、それらの真理全ては「ハイヤーセルフ、神」の創った「設定」である。

【現代の科学の時代において、宗教やスピリチュアルの精神を一般に伝える方法】  
現代においては、科学的な世界観が価値観として支配しており、ほとんどの人類の潜在意識の中に科学というものが根付いている。

このような時代において、宗教やスピリチュアルで説明されているような精神を、一般的な科学の世界にいる人たちに伝えていくには、どのように伝えるのが最も効果的であろうか？

について考えてみたところ、

やはり、「心理学」という学問を使っていくことが効果的なのだろうという結論に至る。

具体的には、

1:最初の段階として、カール・グスタフ・ユングの「集合的無意識」という概念あたりから出発する

2:ロベルト・アサジョーリの「上位無意識、中位無意識、下位無意識」「トランスパーソナルセルフ」といった概念へと話を広げていく

3:ケン・ウィルバーの「意識のスペクトル」モデルへとさらに話を広げていく  
ここまで来ると、宗教やスピリチュアルの精神にほぼ近づく

4:具体的な実践(心理療法)として、「フォーカシング」やプロセス指向心理学の「プロセスワーク」といったものを取り入れていく

といった流れで行っていくのが良さそうな気がする。

こういった感じで、実は心理学(特に、トランスパーソナル心理学)の分野で宗教やスピリチュアルなことも学べてしまうということがわかる。

【ワルネス、純粋記憶、決定論、我々は役者】

私の思う、この世界におけるキーワード

世界に意識は1つ:ワルネス

私という自己同一性や魂の正体:純粋記憶、持続

自由意志は幻想である:決定論

プロティノスは、この世界の出来事は舞台上で役者が、次々に衣装を変えて登場しているようなものだと喩えた。

この世界は、神というワルネスの意識が描いた台本通りに進み(ライブニッツの言う、予定調和のごとく)

我々は、神から分離した存在であり、神の描いた台本通りに演じる役者のような存在である。

そして、自由意志を持っているという錯覚を持つことにより、自分が役者であるという事実をあえて自覚しないように設定されている。

そして、自分の演じる役を受け入れ、それを愛する心が、ニーチェの言う「運命愛」である。

だが、自由意志は無いからと言って、それを言い訳にするのは神の意図とは違ってくる。

自由意志は本当は無いけど、自由意志はあると思って人生を自分で創造していくことが大事である。

【支配的モナド、従属的モナドという概念から、知識不足な私が勝手に考察】

2021年の出生数は81万人だったということを知った。

そして、「そうか…私という存在は、世界の人口約80億人のうちの1人なんだな…」という数の多さを考えてるうちに、  
「なぜ私は私なのか」という疑問を再び抱いた。

そして、ライプニッツの支配的モナド、従属的モナドという概念をふと思い出した。

<https://www.l.u-tokyo.ac.jp/philosophy/pdf/ron38/05-miura.pdf>

こういうサイトとか、

[https://w.atwiki.jp/p\\_mind/pages/72.html](https://w.atwiki.jp/p_mind/pages/72.html)

こういうサイトとか、読んでみたけど、  
漠然とした理解しかできなかった。

だが、1つ私が思ったことは、  
「1人の身体に1つの魂」という前提がそもそも間違ってるのではないか？ということである。

私という身体に、数千という魂が宿ってるかもしれないではないか。

そして数千という魂が全て、「私」だと思っているという、そういう構図だって考えられる。

その数千という魂は、それぞれ全て別の輪廻転生のルートを歩いていき、支配的魂になったり、従属的魂になったりしながら、輪廻転生を歩いていった。  
そして、数千の魂が合流し、今の「私」という主観的世界が誕生した。

その「私」は、数千という魂が全て「私」だと思っているが、その中の支配的魂が「支配的私」であり、残りの私は「従属的私」である。

そういう分離と統合を繰り返しながら、輪廻転生による「分離というスタートラインを予め設定した統合ゲーム」は、「予定調和」として進行していくのであった…

【全ての未来の可能性、全ての頭で想像できるフィクションは「アイデア」として実在し、その中で現実化したものだけが「物質世界」に現象化する説】

全ての未来の可能性、全ての頭で想像できるフィクションは「アイデア」として実在し、その中で現実化したものだけが「物質世界」に現象化する。

つまりは、様々な未来の可能性の「パラレルワールド」は、「精神世界」の中に存在し、フィクションも含め、頭の中で想像できるものは全て「精神世界」に存在する。

その中の精神世界にある膨大なパラレルワールドの中から、「現実化」した世界だけが「物質世界」として現象化する。

そして、その膨大なパラレルワールドの中から、どの世界が現実化するのか？は、「神の意志」により決定される。

つまり、「世界の始まり～終わり」までの全ての流れのパターンが、パラレルワールドとして膨大な数あり、  
その膨大な数あるパラレルワールドの中から、神の意志により決定した世界が「今我々が生きている世界」である。

そう考えると、「未来は決定されているけど、その未来はどのパラレルワールドなのか？が神にしかわからない」

ということになり、

神の視点から見ると自由意志はあり、我々の視点から見ると、実は自由意志は幻想である、

ということになる。

【「ソウルメイト」という概念について、自分なりに調べて考察】

スピリチュアルにおいて、「ソウルメイト」という概念がある。

おそらく、人生において重要人物となる存在は、確実に「ソウルメイト」なのだろう。

それと同時に、ある程度そのソウルメイト同士の、人生における影響し合う役割について生まれてくる前に事前に決めてきていると思われる。

ゆえに、人生を全うした後に、その重要人物というソウルメイトと再会し、そこで今回の人生の「全貌」が明らかになるという、

そういうことなのだろうと私は解釈する。

そう思うと、これからの人生の全てが楽しみになってくる。

【スピリチュアリズムから見た心霊現象の歴史(系譜)を読んで、自分なりにまとめたメモ】

スピリチュアリズム普及会

スピリチュアリズムから見た心霊現象の歴史(系譜)

<http://sp-phenomena.in.coocan.jp/part2/p2chapter1/index.htm>

～アニミズム・シャーマニズム～

太古の原始信仰 アニミズム・シャーマニズム

霊魂説に忠実な信仰

現在のチャネラーと呼ばれる人たちは、シャーマンと同類

アニミズム・シャーマニズムは、地球上で最も古く、広範に受け入れられてきた信仰

～原始宗教から古代宗教へ～

古代文明、古代宗教、自然神的多神教

古代宗教の組織化、シャーマンの排除、祭司・神官・神職の確立  
霊媒行為から儀式という宗教行為へ

神権政治、地上の支配権力の優位性へ  
人為的な儀式、人為的な神話

～宗教教理と巨大組織によるシャーマニズムの徹底排斥～  
世界宗教の誕生

組織を持った教理宗教「表の宗教」勢力拡大  
シャーマニズム「裏の宗教」ひっそりと生き続ける

神秘主義とは、教理宗教の中に入り込んだシャーマニズム、心霊信仰

～教理宗教下における“神秘主義”～

一神教の神秘主義:エクスタシー、神との合一体験  
※スピリチュアル的に解釈するなら、霊的意識の表面化である  
トランスパーソナル心理学では、変性意識と呼ぶ

※霊的成長・霊性の向上は、神との合一体験だけではなされない  
ことに注意

古代インドの神秘主義、ウパニシャッド哲学、ブラフマン、アートマン、梵我一如

仏教の密教化、神秘主義、タントリズム

道教の神秘主義、道(タオ)との合一  
※霊的成長・霊性の向上の観点から見ると、いくつかの難点あり  
時として、儒教のほうが神の摂理に一致している場合もある

～神秘主義の復活～

古代秘儀の作法や神秘主義を奉じた秘密結社の発生  
バラ十字団

独自の神秘主義思想の体系化を目指す動き  
神智学、人智学

初期スピリチュアリズムの登場

近代神智学とスピリチュアリズムとの対立

- ・英国スピリチュアリズムがブラヴァツキーの唱える「輪廻再生説」を否定
- ・神智学がスピリチュアリズムの成立根拠である「霊媒現象」を否定

神秘主義の正当性を主張という点では、近代神智学とスピリチュアリズムでは共通

※近代神智学は、多数の神秘主義思想の寄せ集めにより構成されている点が、人工的思想に繋がった

近代神智学から決別する形で、人智学が登場

※サイキックレベルよりも上位の霊的意識レベルに至る道をシャットアウトしてしまった点が難点

ブラヴァツキーの「神智学」、シュタイナーの「人智学」はともに、古代以来の神秘思想の総合化を目指した

ニューエイジ・ムーブメントの登場

※寄せ集め神秘主義になってしまった点が難点

～“ニューサイエンス”の人類への貢献——ニューエイジの中での最大の功労者～  
ニューサイエンス、トランスパーソナル心理学、ホリスティック医学の登場  
冷静な科学的態度に基づいて真理を求めようとする動き

～まとめ～

アニミズム・シャーマニズムの復活

スピリチュアルは、高次元ネオ・シャーマニズム

【スピリチュアリズム入門を読んで、自分なりにまとめたメモ】

スピリチュアリズム普及会

スピリチュアリズム入門

<https://spiritualism-books.jp/sp-introduction1/>

睡眠中すべての人間が、幽体離脱している

(思い出せないだけ)

死とは、シルバーコードが切れること

脳は、霊の心の受信機

潜在意識が、霊の心(霊的意識)

普段私だと思っている意識は、霊的意識のごく一部にすぎない

催眠術や瞑想法は、脳の受信感度を高める

霊的意識には、過去の出来事や前世に関する情報まで記録されている

～死の瞬間、死の直後～

深い眠り ⇒ 死の眠りからの目覚め、自分の遺体や周囲の状況が見える ⇒ 自分の死を自覚 ⇒ 内在していた霊的意識、霊的感覚が蘇る ⇒ 霊的視界が開ける、すでに他界している親族や親しい人たちが自分の周りを取り囲んでいる、歓迎される ⇒ 守護霊の導きにより最初に休憩所に連れていかれる(霊的世界に入るための準備期間) ⇒ 地上での一生がスクリーンに映し出される、自ら振り返り反省する ⇒ 指導霊に連れられて霊の世界へと入っていく

真実の愛で結ばれた人とは将来、霊界で確実に再会できる

自らの死を自覚させることが供養

～幽界(霊界の最下層)～

地上とそっくり

老化がない、若々しい状態を保つ、障害があった者も五体満足となる

しばらくは、地上世界と同じ価値観、性格、人間性

すべてのものが地上より美しい、明るく輝いている

夜がない、太陽のようなものがあり、この太陽から直接エネルギーを受け取る

思ったことが何でも叶う

思い通りの環境をつくれる

食べる必要も、睡眠を取る必要もない

不快感も疲れもない

労働もない、お金もない

テレパシーで通じ合える

言葉が不要

自分の心がすべて周りに筒抜け

嘘、建て前がすべて通用しなくなる

(ゆえに、波動が合わない者は恥ずかしくなり、人々との交わりを避け、低い場所に行く)

幽界は、霊界に行くための準備をする場所

(霊界への移行をスムーズに行えるようにするための)

幽界はまさに、極楽浄土

思うことが何でも自由に実現するがゆえに、奮闘努力した後に得られるという充実感はない

あまりにも簡単にすべてが実現してしまうため、やがて飽きが来る

地上的な欲望や喜びに飽きが来ることで、新しく精神的なものを求めるようになる  
(つまり、ごく自然な形で霊的意識が芽生えるようになる)

※もともと煩惱が無く、霊的知識に精通し、実践してきた者は、幽界を通り越して霊界に直接行く

～地獄は存在しない、自らの煩惱が地獄をつくり出す～  
幽界の最下層の一部が地獄に該当する

極悪で、利己心の強すぎる者たちが集まる

醜い心を持った者たちが、自らの醜い心によって醜い環境をつくり出す

幽界には、規則も制約もない  
ゆえに、自らの心そのまま反映される

～霊界(本格的な霊の世界)～  
無数の界層 広大な世界

界層間には明確な境界線はない  
幽界と霊界の間も同様

物質界も含め、すべての界層は、一つの場に存在する

すべての世界、界層が重なり合っている

自分の成長レベルに見合った界層に落ち着く

原則的には、上下間の界層の交流はない

(例外としては、導きや指導、救済目的で高級霊が降りることはある、低級霊が無条件に高い層に行くことはまずない)

地上で愛し合った男女の魂レベルがもし同じであれば、同じ界層で再び愛し合う可能性がある  
(その場合、結びつきはより強くなる)

両者に本当の愛があれば、異なる界層同士でも、会いに行ける

霊的結びつきのない関係は、会うことはない  
血縁による結びつきは、霊界においては関係なくなる  
あくまでも、霊的結びつきである

真実の神の愛によって結ばれた両者は、霊界での結婚、魂と魂の融合化がなされる

幽界では一人ひとりが勝手につくり出した幻の環境だが、  
霊界では全体の心が反映した調和のとれた世界になっていく

望むところへは自由に行け、心で考えたことが形をとって現れ、好きなことに専念できる

～類魂(グループ・ソウル)～

霊界入りした霊は、類は友を呼ぶのごとく自動的に惹かれ合って、一体となり、霊的グループを形成するようになる

霊的グループにいるメンバーの心が一つとなっていく  
心の融合化、一体化が起きる  
これを類魂(グループソウル)と言う

類魂の中では、他の霊の地上人生はその霊のものであると同時に、私の地上人生にもなる

他の霊の体験と知識、感情は、すべて私のものとなる

～永遠の靈的成長の道～

地上人生の目的:魂を成長させて永遠の死後の世界に備えること

人間の靈的成長を効果的に促す環境、神が計画した

靈的成長のバロメーターは「利他愛」

「神の愛」とは、「親の愛」

神は、靈的親

完全な無償の愛

神の愛を身につけることが靈的成長

～再生～

類魂全体の進化向上のため、メンバーの1人が代表として地上に再生する

もしくは、個人が地上でつくり上げたカルマを自分自身で解消するために再生する

再生の詳しい仕組みは、まだ未解明(地上の概念では説明しきれない)

～地上圏靈界から宇宙圏靈界へ～

地上圏靈界(物質圏靈界):再生を必要とする地上との関わりを通して靈的成長をしていく段階の靈界

宇宙圏靈界(脱地上圏靈界):靈的成長が進んで地上へ再生する必要がなくなった高い靈界

宇宙圏靈界になると、靈的身体(靈体)さえも不要になる

光源や色彩のような形で存在するようになる

地球以外の天体にも、地球と同様に物質世界を取り巻く靈的世界がある

宇宙圏霊界に至った霊は、他の天体の霊たちとも交流できる

【続スピリチュアリズム入門を読んで、その中の一部を自分なりにまとめたメモ】

スピリチュアリズム普及会

続スピリチュアリズム入門

<https://spiritualism-books.jp/sp-introduction2/>

～動物の死後のゆくえ～

地上時代に人間から愛を受けた動物は、幽界で飼い主を待ち続ける

そして幽界で再会する

やがて、その後集合魂の中に吸収されていく

地上体験を集合魂(グループ・スピリット)に持ち帰ることで、集合魂全体が進化していく

動物の集合魂がさらに進化したときどうなるのか

最終的な結論はいまだに出ていない

霊界通信の間でも意見が分かれている

動物の集合魂が進化して人間の霊レベルに近づき、人間の個別霊が誕生するという

見解もある

一方、種として固定されているという見解もある

～宇宙人の存在とその様子～

同じ物質世界でありながら、物質の状態が異なる別の物質世界がある

異次元の物質世界は、幽界に似ている

が、そこは霊的世界ではなく、物質世界に属する世界

地球とは物質のバイブレーションが異なるため、地球人の視界には映らない

地球人と宇宙人は共に、神の子供であり、神の霊的家族の一員であり、霊界が母国である

～再生について～

今の私の「同一自我意識」がそのまま再生されることはない  
つまり、世の中の大半の人々が信じているような再生はない

今自覚している自分: パーソナリティー意識、顕在意識  
意識の全体・意識の総体: インディビジュアリティ(霊的意識)、潜在意識

私だと思っている意識は、インディビジュアリティのほんの一部と本能意識が合体したもの

地上にいる間は、本当の自分を知ることはできない  
死後、脳を介さない意識・インディビジュアリティを自覚できるようになる  
その時、地上時代に隠されていた「大きな自分」を自覚することとなり、たいへんな驚きをもたらす

今の自意識を私Aとすると、再生時には私Aはインディビジュアリティの中に溶け込み、なくなる  
そして再生により別の自意識の私Bが現れる

地上の側から見れば、再生時には「全くの別人が現れる」ということになる

インディビジュアリティの観点から見ると、違う部分であっても同一の霊の一部が再生することになりはしないため、「再生はある」と言うことができる

～神とは～

神は無形の存在

神は、霊界・宇宙のすべてに遍在している「無限大の広がりを持った大きな心」「無限大の意識体」

性別を超越している

すべての陽・陰を含む中性体

神は、霊界と宇宙、すべての存在物を創造した

神は人間にとって「霊的な親」

私たちの内には、神の分霊が存在している

神は、法則を通じて霊界と宇宙を支配している  
完全平等、完全公平の世界

【宇宙は無であると同時に全てが存在する、できないを体験するために地球に生まれた】

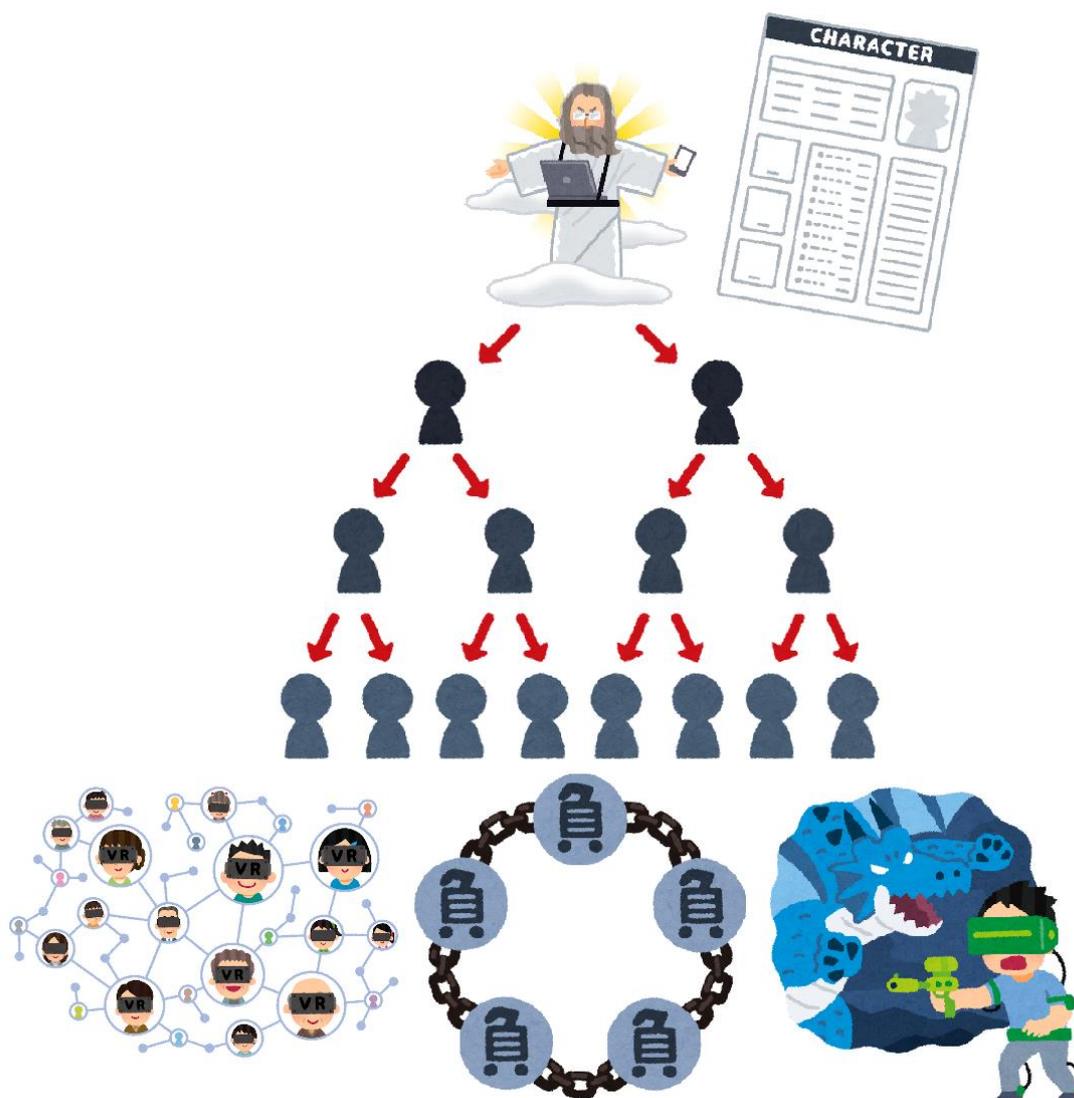
宇宙は「無」であると同時に「全て」が存在する。

本来の自分であるハイヤーセルフは、「なんでもできる」「どこにでも行ける」「全てを創造できる」「愛の塊」のような存在。



そんな、ハイヤーセルフは「やれない」「できない」を体験するために、肉体という制限をかけて地球に降りて来た。

「なんでもできる」存在だったハイヤーセルフが、「できない」を体験でき、「努力」という過程を体験できる、臨場感溢れるゲーム、それが地球という場所。



私たちはもう十分「できない」を体験してきた。  
これからは、「できない」というネガティブを手放して、地球にしながらハイヤーセルフの  
頃の意識を思い出し、「本当の自分らしい生き方」をしていく。  
それが目醒めるということである。

**【スピリチュアルと仏教を比較して考えてみると】**

スピリチュアルで語られていることと、仏教、密教の瞑想法を比較して考えてみると、こ  
のようなことに気付いた。

～スピリチュアル～

第一段階:周波数を手放していく

第二段階:感性を開いていき、チャネリングやリーディングを人生に取り入れていく

第三段階:宇宙そのものの自分で、地球を生きる

～仏教、密教～

第一段階:ヴィパッサナー瞑想を使って、周波数を手放していく

第二段階:サマタ瞑想を使って、感性を開いていく

第三段階:クンダリニー・ヨーガを使って、「宇宙そのものの自分で、地球を生きる」

このような段階で対応させることができるのではないかと思いました。

【[旧記事]スピリチュアルのワークと世界樹との関係についての考察(+クンダリーナー・ヨーガ)】

世界中のシャーマニズムの文化に見られる「世界樹」または「生命樹」  
世界樹は、天上世界と地上世界、地下世界を繋いでいる存在である。

その世界樹が、1人1人の人間の中にあると捉えた場合、  
「樹の幹」は天上世界と地上世界、地下世界を繋ぐ中心軸であり、その位置こそスピリチュアルで言う『100の位置』であると捉えることができる。

そして、我々は天上世界にいるハイヤーセルフの自分が地上世界に降りてくることで、人間として存在している。

そして様々な眠りの体験をすることで、その眠りの周波数が地下世界に蓄積されていく。

その地下世界に蓄積された周波数を手放すことが、スピリチュアルで言われる『手放す』ということである。

スピリチュアルにおいて『グラウンディング』が大事とよく言われる。

このグラウンディングというのは、世界樹に当てはめると、「樹の根っこ」であると捉えられる。

そして、感性を開いていくことで、内なる宇宙である天上世界の存在たちやハイヤーセルフとチャネリングを通して繋がっていくことができ、

本当の私という存在は、地上世界にいるこの肉体の存在ではなく、世界樹そのもの、つまり宇宙そのものであると、自覚する。

そして、そこが「宇宙そのものの自分で、地球を生きる」スタートラインである。

このように解釈することができる。

また、これを仏教や密教に当てはめて考えてみると、

「100の位置」とは、お釈迦様の場合は「菩提樹の下」が100の位置に立った場所であったのだろうと捉えることができる。

そして、仏教の修行において、眠りの周波数を手放す上で、ヴィパッサナー瞑想が行われる。

また、グラウンディングをする上でも、ヴィパッサナー瞑想が行われる。

日常的に、六波羅蜜や四無量心、徳を積むといったものを取り入れることで周波数を手放していく。

サマタ瞑想は、私という存在は宇宙そのものであるという体験ができる瞑想である。この場合は、サマディーの状態の時のみ宇宙そのものになれると言える。感性を開いていく上で有効であると思われる。

そして、究極の瞑想法、クンダリニー・ヨーガは、まさに「宇宙そのものの自分で、地球を生きる」ための瞑想であり、それを世界樹に当てはめて解釈するならば、周波数を手放していき、徳を積んでいくことで(徳を積むとは、自分の中の周波数を調和に書き換えることであると言える)、クンダリニー・ヨーガを行う準備をしていき、クンダリニーの上昇を行うことで、内なるエネルギーが地上世界から天上世界にまで上昇する。

そして、甘露が体中(つまり世界樹全体)に飽和状態になることで、サマディーの状態(つまり宇宙そのものの自分)になる。

そこから臨死体験の疑似体験が起き、その後、生まれ変わる疑似体験が起きる。

つまり、一度天上世界にいる元のハイヤーセルフに戻った後、再び地上世界に生まれ変わる疑似体験が起きるのだ。

その生まれ変わった自分は、まさに「宇宙そのものの自分」であり、宇宙そのものの自分で地球を生きていくことができるようになるというわけである。

また、化身の受胎により、様々な世界を化身を通して体験することができるようになるとも言われ、

つまり、これは、よくスピリチュアルにおいて「宇宙会議」というものが宇宙にはあると言われ、光体の姿で宇宙会議に参加するという話があるが、この光体こそまさに、ここで言う化身ではないかと思われる。

このように、クンダリニー・ヨーガは、「宇宙そのものの自分で、地球を生きる」究極の瞑想であると言える。

だが、このクンダリニー・ヨーガは、とても難易度が高い瞑想法であると言え、目醒めることが非常に難しい眠りの時代においての、目醒める方法がこのクンダリニー・ヨーガという方法であったのかもしれない。

現在は、とても目醒めやすい地球になってきており、とてもやりやすい方法として、多数のスピリチュアルワークが考案されている。

## 参考文献

- <https://www.youtube.com/channel/UCiTA-jjPRc0yB5MaUmPm8Fw>
- <https://morfos.blog.ss-blog.jp/>
- <https://www.youtube.com/playlist?list=PLwd8H8l408XGmd1U4aTjxjbo8CHN5wJz5>

また、上記の3つの文献のほかに、こちらの文献も合わせて見ることによって、スピリチュアルとシャーマニズムと仏教、これらは本質的に同じことを語っているということを知る上で参考になるかと思われます。

- <https://www.youtube.com/playlist?list=PLwd8H8l408XEGgUwuboJ-e1TBfuvopyyv>

## ～追記～

ゾロアスター教において、人間が生まれる前、「魂」と「守護霊(フラワシ)」は1つであると考えます。

生まれる時に、魂だけ地球に降り立ち、守護霊は守護者としてその人を守り続ける。

そして、この世での命が終わった後、再び魂と守護霊は1つになる。

その際、人として生きている間に得た全ての経験を守護霊に伝える。

この経験に基づいた知識は、絶え間ない善と悪の抗争において役立つとされている。

- <https://world-note.com/zoroastrianism/>

このゾロアスター教における、守護霊(フラワシ)は、スピリチュアルで言うハイヤーセルフにまさに該当する。

人として生きている間に得た全ての経験を守護霊に伝えるという部分においても、スピリチュアルで語られていることとまさに一致する。

## ～追記～

太古の原始信仰である、アニミズム、シャーマニズムは、地球上で最も古く、広範に受け入れられてきた信仰である。

現在のチャネラーと呼ばれる人たちは、この当時のシャーマンと同類である。

※世界中のアニミズム、シャーマニズムの世界観は普遍性が見られる。

そこから、古代文明、古代宗教、自然神的多神教が生まれ、言語による様々な表現の多様性が生まれた。

古代宗教の組織化に伴い、シャーマンの排除～神官が確立された。

また、霊媒行為から儀式という宗教行為へ、神権政治、支配権力への利用へと繋がっていった。

世界宗教へと勢力を拡大していった「表の宗教」とは対象に、シャーマニズムは「裏の宗教(密教)(神秘主義)」として生き残った。

近代に入り、スピリチュアリズムの登場と共に、神秘主義は表舞台に復活し、現在に至る。

・<http://sp-phenomena.in.coocan.jp/part2/p2chapter1/index.htm>

～追記～

シャーマンの世界である、天上世界、地下世界、これらを「心の世界」と一括りにしてシンプルに捉えてみると、

●源

●心の世界

存在:アイデア、宇宙人、マスター、神様、霊、ハイヤーセルフ

イメージの世界:シャーマンのトリップ、瞑想、ワーク、チャネリング、リーディング、霊視

脳とアクセス:記憶、パラレル

●現実世界

このように一括りに捉えることができ、理解しやすくなる。

～追記～

狩猟採集の文明未発達時代:宇宙の流れと一体した生活、スピリチュアル的感性が発達

農耕文化～文明が発達～都市国家誕生:宇宙の流れに逆らう生活、スピリチュアル的感性が閉じた

⇒ そんな俗世間から離れることを選択した集団が現れ始めた:ユダヤ教エッセネ派、バラモン教ヨーガ学派や沙門…

それにより、ユダヤ教エッセネ派からイエス・キリストが、バラモン教～沙門の流れの中でお釈迦様が誕生した

彼らの共通点は悪魔の誘惑、つまり俗世間の誘惑に打ち勝った点にある

⇒ 誘惑に打ち勝った、つまりスピリチュアル的に言うところの「周波数を手放した」ことで、スピリチュアル的に言うところの「100の位置」に戻った

仏教をはじめとする修業的手法による周波数の手放し方、現代スピリチュアルの手法による周波数の手放し方、  
どちらも手法の違いなだけで、目的は同じであるといえる。

#### ユダヤ教エッセネ派

- ・どこのグループよりも禁欲的な生活を送り、自らの霊性を高める
- ・俗世間から離れ、共同生活 財産を共有して生活 所有物を共同管理 小規模共産社会
- ・12歳になるまで宗団の規定に従って生活 21歳まで見習いという身分 30歳までに立派な宗団員になることを期待される

⇒ 厳格な規律を守り、所有欲や本能的な欲望を制限して禁欲生活を続けることで、特殊な能力を手に入れようとしていた(預言者集団と言われていた)

#### イエス・キリストのエピソード

- ・12年間の第一の空白期間、12歳の頃の聡明な天才エピソード
- ⇒ エッセネ派の「12歳になるまで宗団の規定に従って生活」と一致
- ・12歳～30歳までの第二の空白期間、30歳で洗礼を受けた
- ⇒ エッセネ派の「30歳までに立派な宗団員になることを期待される」と一致

悪魔の誘惑に打ち勝ち、洗礼を受けることができた

文献:<https://youtu.be/azzi2ydGQY4>

仏教における仏伝にも、お釈迦様の「悪魔の誘惑に打ち勝つ」エピソードがあり、イエス・キリストとお釈迦様のエピソードに多数の共通点が確認できる

～追記～

仏教で説かれる修業の全ては「心の訓練」  
これらの修業は客観的真理ではなく「方法論」

そして、全ては

『エゴの放棄』: 全ての苦しみの原因の放棄

『菩提心(慈悲)』: 全ての幸福の原因

に繋がる

文献: [https://youtu.be/snp4e\\_k-0qM](https://youtu.be/snp4e_k-0qM)

そしてそれは、イエス・キリスト本来の教えにおいても、スピリチュアルにおいても同じことが言えるのかもしれない。

あらゆる教えの行きつく先は、「エゴの放棄」と「慈悲」に繋がる。

そして、世界中の神話や終末思想で語られていることの、行きつく先は「エゴ」と「慈悲」の戦いであり、

エゴによって形作られてきた人間の今までの歴史から、現代はエゴの放棄と慈悲の心によるアセンションのタイミングに差し掛かっていると思われる。

～追記～

●地球、プレアデス、シリウス、等々…

●地球そのものの地母神と、その分け御霊 ⇒ 地球上に存在するあらゆる動物や植物: 地母神と繋がっており、地球が彼らのふるさと

●人間 ⇒ プレアデスやシリウスからやってきた宇宙人が、地球から地球の素材(DNA)をレンタルすることで地球に降り立った存在: 地球ではなく宇宙が本来のふるさと

⇒ 宇宙が本来のふるさとであるということを忘れる: 眠る

眠りの時代: 地球がふるさとの地球の先住民の土地にやってきて、宇宙が本来のふるさとであることを忘れ、地球を自分たちの場所のようにふるまい過ごしてきた

(かつて我々がやって来る前は、地母神の分け御霊である先住民間での調和の取れた地球であった)

目醒めの時代:宇宙が本来のふるさとであることを思い出し、地球という土地は我々の所有物ではないということを思い出し、地球をかつての調和の取れた地球に戻し、我々も宇宙との調和の取れた生活を実現させていく  
結果、地球そのものと宇宙そのものの調和が実現していく

そのためには、このことに気づくこと  
そうすれば本来の自分を思い出していく(付随的に霊能力の感性も開かれていく)

参考:<https://youtu.be/zPDWrX-rgyo>

～追記～

・セフィロトの樹とソルフェジオ周波数は、チャクラに対応している。

・※私個人の解釈

お釈迦様の仏教の教えに「中道」っていうのがある。

>2つのものの対立を離れていること。断・常の二見、あるいは有・無の二辺を離れた不偏にして中正なる道のこと。

この中道的視点により、右目でも左目でもない第三の目が開かれるのではないか。それがつまり、プロビデンスの目。

・そして、子宮から子供が創造されるように、プロビデンスの目から創造される。

・日本の奥の院は山頂にあり、古代蛇(龍神)信仰の名残

インドの古代神話にはナーガという神に会うには山頂に行く必要がある

ユダヤ教ではモーセは、蛇との繋がりが(頭の角は実は龍の頭)、モーセが神と会った場所はシナイ山の山頂

古代の神話は龍蛇が土台

・二匹の蛇(陰陽)が第三の目で重なる時、頭頂部がインスピレーションの受け皿となる  
古代では蛇は復活のシンボル

クンダリーニ覚醒は、二匹の蛇が人のスカルで重なることで起こる

そして、海賊旗であるジョリー・ロジャーのシンボル ⇒ 2本の骨は蛇

人がスピリチュアルな存在として復活(覚醒)する

つまり、頭頂部の第七チャクラは受け皿であるカップ

キリストの十字架のシーンは、2本の木を重ねて出来た十字架があり、キリストの血が聖杯に注がれている。キリストが十字架に架けられた丘はゴルゴダの丘はスカルの丘という意味。聖杯に注がれる血は知恵の血。そしてキリストは復活のシンボル。

・人類が誕生する前、生命は神とは遠い存在であり、知恵の無い存在であった。神の間では、知恵を与える派の神と、与えない派の神がいた。そして知恵を与える派の神による行動により、人類は誕生した。古代、人類が平和だった頃、神と人は近い存在であり、真理の知恵は人類にとって身近なものであった。それは、人類への真理の知恵を与える派の神によるものであった。だが、やがて人類は争いが絶えなくなり、人類に知恵を与えたのは間違いであったと悟った与えない派の神は、大洪水により一度リセットした後、天と地を分断させることにより人類の真理の見える第三の目を閉ざした。与える派の神は、自らの責任を取る形で、地球の罪や穢れを浄化する役割を担った。そして人類は長らく、真理の目を閉ざした眠りの時代を過ごした。そして現在、知恵を与える派の神と、与えない派の神は共に和解し、人類の精神性の成長を見守ると共に、精神性が向上した際には人類の前に姿を表すつもりでいる。人類の精神性の成長と共に、真理は解禁されていく。

※精神性の向上が真理解禁の鍵となるのであろう。ゆえに、眠りの時代においてはお釈迦様やイエス・キリストといった一部の精神性を向上させた人のみが真理の悟りを開くことができた。

古代は瞑想のみで真理の扉を開くことができたが(ヨーガ・スートラにあるように)、時代と共に人類の眠りは深くなっていき、瞑想だけでは真理の扉を開くことはできなくなっていった。

ゆえに、クンダリーニ・ヨーガといった手法が開発されていった。

(※の情報は AmritaChannel より)

・瀬織津姫:今我々がいる宇宙そのもの、宇宙は瀬織津姫のお腹の中。光の存在である瀬織津姫のお腹の中に、光の鏡写しである闇が生まれ、その闇が宇宙となり、宇宙にできた泡が星となり、流れが流神つまり龍神となった。

その龍神が地球を創った。

世界樹は、龍神そのものであり、イザナギつまりイザナ木である。

イザナミは、陰陽に分かれた世界樹の陰を表す。

そして陰陽つまり光と闇が重なり合い、物質世界が生まれた。

そして、神産みの神話において地球を創造した。

光の天界の存在は、天津神系の龍神族、国津神系の巨人族、共に瀬織津姫の子である。

国津神系は、人類に知恵を与えた。だが、争いが絶えなくなった。

争いにより悪霊は増え、天界の上層部にまで侵食し始めた。

天界と黄泉との道を封鎖したのが、イザナギとイザナミの黄泉でのエピソード

そして、悪霊の侵食を食い止め、結界を張ったのが須佐之男命であり、それが八岐大蛇伝説である。

そして、知恵を与えた責任もあり、須佐之男命は人類の罪や穢れの浄化の役を担った。

天津神系龍神族は、大洪水を起こし、地球をリセットした。それが、イザナギの禊のシーンである。

そして、天と地は分断され、再び世界の創造し直しとして三貴神が誕生した。

先ほどの上記の内容を日本神話に当てはめるとこのようになる。

世界のあらゆる神話は同じ出来事をそれぞれ違う表現で表しており、ゆえに登場する神も実はそれぞれ各神話ごとに同一神とされる神が登場する。

詳しくはこちらのチャンネルを参照：

<https://www.youtube.com/@yoshisuntv7502>

### 【お釈迦様はなぜ悟ったのか？について】

インドにおいては、ヴェーダによって神話が伝えられ、ウパニシャッドによって哲学的な意味が伝えられた。

そして、六派哲学、沙門の思想によって様々な解釈が行われた。

ウパニシャッド哲学: 梵我一如

#### ● 正統派: 六派哲学

ヴァイシェーシカ学派: 実在論、多元論

ニヤーヤ学派: 論理の追求

サーンキヤ学派: 因中有果説、転変説

ヨーガ学派: 有神サーンキヤ哲学、ヨーガの実践

ヴェーダーンタ学派: 不二一元論

ミーマーンサー学派: 祭式至上主義

#### ● 反正統派: 沙門

・六師外道 (仏教側から見た異端思想)

プラーナ・カッサパ: 行為の善悪否定論

マッカリ・ゴーサーラ: 宿命論

アジタ・ケーサカンバリン: 唯物論

パクダ・カッチャーヤナ: 七要素説

サンジャヤ・ベーラッティプッタ: 不可知論

ニガンタ・ナータプッタ: 相対主義

・仏教

ゴータマ・シッダッタ: お釈迦様

お釈迦様はなぜ悟りを開くことができたのだろうか？

私個人はこう感じました。

仏伝において、

>シッダールタはシュッドーダナらの期待を一身に集め、二つの専用宮殿や贅沢な衣服・世話係・教師などを与えられ、教養と体力を身につけた。

とされている。

おそらく、お釈迦様はヴェーダやウパニシャッド哲学、六派哲学やこの頃から存在していた沙門の思想等、様々な教養を身につけていったと思われる。

その後、お釈迦様は出家し、三人の師についたり、様々な苦行を行う等、行動によってあらゆる実践、修行を行っていった。

その過程の中で、スピリチュアルで言う「100の位置」に戻っていったのであろう。

そして、菩提樹の下に坐して瞑想を行った時、100の位置からダイレクトにハイヤーセルフと繋がり、

全ての点と点が線で繋がり、言語化できない悟りの境地に達した。

悟りを開いた後の教化と伝道も、100の位置に自らが立ち続けるために非常に重要なことだったのであろう。

ここまでに出てきた要素をまとめると、

- ・様々な教養
  - ・出家、修行
  - ・悟りと伝道
- の3要素となる。

この3要素は、イエス・キリストにおいても同様に見ることができる。

> イエスはガリラヤ地方のナザレで育つ。ルカの福音書によれば、大変聡明な子であった。

(様々な教養)

> 洗礼者ヨハネがヨルダン川のほとりで「悔い改め」を説き、洗礼を施していた。イエスはそこに赴き、ヨハネから洗礼を受ける。

> そののち、御霊によって荒れ野に送り出され、そこで40日間断食し、悪魔の誘惑を受けた。

(出家、修行)

> 荒野での試練の後イエスはガリラヤで宣教を開始する。

(悟りと伝道)

様々な教養というは、様々な言語による解釈は全て「本当は言語化できない真理を、様々な角度から地球の概念で言語化して語っているにすぎない」ことであるということ  
を悟る上で必要であり、

出家や修行というのは、100の位置に戻るために必要であった。

そして、100の位置に戻った上で、ハイヤーセルフとダイレクトに繋がった時、言語化  
できない真理を悟ることとなる。

この3要素が、眠りの時代における目醒めるためのステップであったと考えられる。

目醒めやすい地球になってきている現在においては、過度な教養や過酷な修行無し  
に目醒めることが可能になってきていると思われる。

#### 参考

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLmIECb2QKW1gWVwnCPUJJffs3ICjJV>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%88%E8%BF%A6>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%82%A8%E3%82%B9%E3%83%BB%E3%82%AD%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%88>

#### 【悟りとは】

多くの人は

「本当はやりたいことがある。でも、周りの目があるから… 金銭的な心配があるから…  
常識的に考えるとこうだから…」

と何かといろいろ自分の中の“しがらみ”を自ら作ることによって「本当のやりたいこと」  
ができていない、

というのが一般的な多くの人

であると共に、悟りというのは、

これらの自分の中にあるブレーキを外していくことにより、

「何のしがらみも無く」「素直に」「自分の生きたいように生きれる」「やりたいことをただ  
素直にできる」

これが悟りの境地なのであろう。

その際、アクセルも外していくことによって、  
「絶対にこれを手に入れて現世的成功をおさめて承認欲求を満たしてみせるメラメラ」  
という現世利益的な欲求から、  
現世利益というしがらみからも解放された、より本質的な「やりたいことをただ素直にやる」という悟りの境地に至れる。

それは、源に還るための道筋(カルマ)を最短で昇っていくための境地であるといえる。

## 【TOLAND VLOG の動画から様々な情報】

～『アミ小さな宇宙人』～

- ・ある程度のレベルの文明に達した文明は、善意に欠けてると自分たちの中で争い自滅していつている  
(宇宙人が地球を侵略しない理由)
- ・悪い心があるうちは、結果は自滅しかない
- ・偶然は無く、全ては関連し合ってるから全ては必然
- ・地球は今、科学？ or 調和？ の転換期
- ・神様は、人の形をしていなく、純粋なエネルギー体、知性、愛そのもの
- ・宇宙にもルールがあり、変に干渉することはできない  
ルール内でしか地球のサポートはできない
- ・核が落とされた時は、人類への警告のために一時的にサポートが増えた
- ・地球人が自滅を免れた段階になったら、リアルで宇宙人が人類の目の前に現れる
- ・地球人にも進歩度の振り幅が大きいように、宇宙人にも振り幅が大きい  
進歩度の大きい宇宙の存在がまだ高くない宇宙の存在に学ばせるために、地球の救済計画に参加させたりする
- ・救済計画のサポート内容は、銀河系の中心にあるスーパーコンピュータが全て指令を行っている
- ・地球人の愛の度数:320～850度
- ・救済計画に来ている宇宙人アミ:760度
- ・頭の脳が、ハートに奉仕することで精神性は高まる
- ・宇宙人アミもかつては野蛮な野獣の前世や、様々な戦争の前世を体験していく中で、今の今世のアミになった

・古代、人類が自滅の道を歩んだ時、一部の知らされた人を除いて大絶滅したことがあった

その生き残った人たちの子孫が今の人類

大絶滅した際に、一部の進歩度の高い人たちを宇宙の別の星に移動させたこともあった(700度を超えていた)

・文明の精神性が発達してくると、国が無くなり、統治する人もいなくなる

・宇宙の基本法は「愛そのもの」

<https://youtu.be/MvX3IWGm7uw>

<https://youtu.be/DNHhQdU08LE>

愛を手に入れるには、愛が感情じゃなく存在であることを知ること

愛は最初に存在していることを信じること

愛は愛を与えることでしか手に入らない

親交世界にまで行くと、精神が肉体を離れても、「意識も記憶も失わない状態で新しい体へと移り変わる」

<https://youtu.be/JxP686PVDEE>

伝え方一つで良いものも悪い意味で変な感じに伝わったり、

良くない伝わり方をする

だから伝えるのも凄く成長になる

新しい種の間が、親交に入れる水準まで進化した時に、

それに協力できるようにするために、

数え切れないいろいろな星があり、それが文明になっていくための、精神的な文明国

にするために、銀河系生命の改良に協力してもらうために、地球人は創造された

[https://youtu.be/yj\\_wlWMXuSs](https://youtu.be/yj_wlWMXuSs)

～単発動画含めた動画～

- ・太陽にも生命体がいる

地球の我々の感覚で太陽が燃えているだけで、周波数が違うと燃えていない  
いろいろな次元やルールが合わさっている場所  
太陽内でアセンション移動できる

- ・地球がまだ進んでいない頃から火星に哺乳類みたいな生命がいた  
火星人がまだ誕生間もない地球を観察していた

- ・もともと太陽から分かれて、その生命のエッセンスが火星にもたらされた  
火星人も地球に、火星人の生命のエッセンスを持ち込んで、火星と似た進化を遂げさせようとした

- ・月は、火星人が地球を住める環境にするためにするための過程で使った装置

- ・火星でかつて大戦争が起き、住めないくらいになった  
戦争をやめて火星を再生させるために、そのための労働力のために、地球の生き物を労働力にするために自分たちの DNA と地球人の生命を掛け合わせて人類を創った

- ・火星に戻ってきた地球人を火星のテラフォーミングの労働力にするために

<https://youtu.be/yQxupLwCIS0>

- ・周波数の違いにより知覚できないだけで、どの星にも生命は存在する

- ・どの宇宙文明も、争いを経て成長を遂げていく  
やがて、成長を遂げていくにつれ、サポート側にまわっていく  
(宇宙人が地球人をサポートするのは、それが本能)

- ・高次元では「経験したこと」はすぐ叶うけど、「経験したこと」しかできない  
「経験」するために物質次元に生まれ、魂を磨いていく

<https://youtu.be/rBjkkAJEpbE>

- ・神様の名前は役職名であり、世襲制によって受け継がれていっている  
神様の名前(役職名)と、本名は違う  
複数の役職名を持っている場合もある

- ・憑依された人物 ≠ 神  
その人を依り代にして天下った

<https://youtu.be/nKfAiMH6iN0>

アポロ14号 エドガー・ミッチェル

- ・宇宙に行った瞬間、一瞬にして問いも答えも全部が出てきて理解した  
瞬間的に真理を理解した

- ・すべてに意味がある  
全部が完璧なバランスで成り立っている

- ・宇宙の人格は、愛情と知性と調和

- ・みんなが宇宙全体の神のプランの参加者  
一人一人の意識そのものが宇宙の創造に携わっている

- ・神様は、宇宙の知性そのもの  
全ての存在がその神に繋がっている

[https://youtu.be/kpiM-0FO\\_UI](https://youtu.be/kpiM-0FO_UI)

・古代シュメールの知恵とは、宇宙と繋がって宇宙から情報を得るということだったので  
はないか

・ヨガやチベット仏教などで用いられるチャクラという考えも、宇宙との繋がりが関係して  
いる

・神に遣わされて人類に知恵を授けに来たアプカルルは、人間を覚醒させに来たので  
はないか

全人類を悟りに境地にまで持っていくために？

・だが、アプカルルは神と対立した後に去っていった  
人間は本当は凄い力を持っているけど、それを封じ込めていたほうが都合が良いとい  
う存在がいるのかもしれない

・日本で見える銅鐸も初期のやつはミステリーバッグに似ている  
銅鐸は祭祀で用いられていた道具で、神と交信するアイテムとして使われていた  
古代出雲族にまつわる地域で多く発見されている

<https://youtu.be/9pWZZgunSlw>

・日本は世界の縮図である  
日本は神の国であり、世界のモデルとして神が最初につくった

・人類の起源であるアフリカ大陸は九州に該当する

[https://youtu.be/cgZ5Zj0nW\\_8](https://youtu.be/cgZ5Zj0nW_8)

～シュメール神話～

・原初の海の女神ナンムが宇宙を生んだ

・その宇宙が、天空の神アヌ、大地の神キを生んだ

- ・アヌとキの子供が、大気の神エンリル
- ・エンリルが地球の管理をした  
神々はエンリルの神殿に集まって地球をどうしていくか会議した
- ・アヌとキは、人間をつくった神エンキを生んだ  
イシュタルも生んだ
- ・エンキは天の船に乗って、いろいろな土地を管理していた
- ・当時、地球では神々が地球で労働をしていた  
大地を耕したり、運河を引っ張ったり  
労働力の代わりに存在をつくろうということになった  
自分たちの情報を使って地球の粘土を混ぜて人間をつくった
- ・神々の代わりに労働力として人間が働きはじめた
- ・神々は増えすぎた人間を洪水で一度減らした
- ・エンキの配慮により、ウトナピシュティム含む一部の人間のみ生き残った

<https://youtu.be/9Fql0CBCDqQ>

## 【封印された真実の歴史について】

～正統竹内文書シリーズより～

- ・原初の世界に、無の神がいた
- ・意識の神、音の神、湿度の神、重力の神、光の神、時間の神が生まれた
- ・造化三神が生まれた  
アメノミナカヌシ:宇宙そのもの  
タカミムスビ、カミムスビ:天地・万物を生み成長させる力
- ・無数の意識が生まれ、星々になっていった
- ・その無数の意識の中の1つがプレアデス星団
- ・地球が生まれた:大地母神(クニトコタチノカミ)
- ・大気の神(トヨクモノノカミ)が生まれた
- ※ここまでは男女の概念はない
- ・男性神、女性神が一對となって現れ始める
- ・男性神オモダルノカミ、女性神アヤカシコネノカミが生まれ、生物が生まれ、陸上に進出し始めた
- ・天上世界にいた高次元の存在、男性神イザナギ、女性神イザナミという人の形をした男女の神が「神霊」として、地上世界の生き物を依り代として地上に天下った

文献:<https://youtu.be/SHJIXWq7mvmk>

※天上世界にいた高次元の存在が「神霊」として、地上世界の生き物を依り代として地上に天下った

これは、宇宙人が人類に干渉したことを意味するのか？

精神世界の存在が降臨したことを意味するのか？

・イザナギ、イザナミ以外の人間は、プレアデス星団の星々の魂が人類の魂の祖先となった

・イザナギとイザナミの間に儲けた16の皇子と皇女を、世界中の16方位に派遣することで、不安定な世界を統治していった  
(言語、信仰、文化を伝えていった)

文献:<https://youtu.be/FcLs50gpXA>

・最初の頃は、もともとは女神中心の社会であった  
※大地や海そのものを女神とする地母神をはじめとする

・世界的にある時から、男神中心の社会に変貌していった  
(その際、神話が書き換えられ、瀬織津姫をはじめとする女神が歴史の表舞台から封印されてしまった)

・その結果、支配するされるというピラミッド構造の社会になっていった  
(結果、文明の発展は一気に加速し、激しい競争が生まれた)

・現代、もうすぐ時代は大きく変わり、物質文明から霊的文明の時代へと大きく変わってくる

(この移行期において混乱の世が一時的に訪れる)

※古代神話に残る大洪水のエピソードとも一致するような

・その時、アマテラス・スサノオ・ツクヨミの血を引く、かぐや姫の末裔が再び現代に姿を表すかもしれません

文献:<https://youtu.be/VBRPuhsNPw8>

※詳しくは、こちらをご覧ください

【極秘口伝】正統竹内文書シリーズ:

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLrd0S07H\\_Wx5z1qYcnIUNmDuMa\\_2Uh1yu](https://www.youtube.com/playlist?list=PLrd0S07H_Wx5z1qYcnIUNmDuMa_2Uh1yu)

追記:人類の進化について上記から考察

造化三神の力により、無数の意識(星々)が生まれ、

やがて、地球(地母神)が生まれた。

そして、地球上に生命が誕生したわけであるが、

地球上に誕生した動物、植物の魂は基本的に、地母神(地球)の分け御霊として生まれたものと思われる。

地球上に誕生した猿人、原人をはじめとする初期の人類も、他の動物と同じ地母神の分け御霊から生まれた。

その後、天上世界にいた高次元の存在、イザナギ、イザナミが地上世界の生き物を依り代として天下った。

それが現生人類の誕生であり、それにより現生人類は他の人類には無い特殊能力を獲得した。

ユヴァル・ノア・ハラリ(著)『サピエンス全史』で指摘されている「現実には存在しない虚構(フィクション)を信じ、語ることのできる能力」である。

それは、天上世界からの知識によりもたらされたものであり、それが結果的に文明の発展に大きく貢献した。

つまり、日本神話でいうところの「国津神」は、地母神の分け御霊である動植物たちであり、「天津神」は天上世界から天下った宇宙由来の魂である。

このように捉えることができる。

・動物界、植物界:地母神(地球)の分け御霊

・人間界:天上世界から天下った宇宙由来の魂

追記: 正統竹内文書から読み解ける内容を改めて整理

- 神様の名前 = 役職名

世襲制によって受け継がれている

偉くなるにつれ、いろいろな役職名が付いてくる

世襲制だから時代を越えることもある

天に存在する精神体、高次元なところから地上世界の生物を依り代にして魂が降り立っている

憑依された人は実際に存在した人物

憑依された人物 ≠ 神

- 政治を司る統治王

祭祀を司る祭祀王

二人一組で国を治めていた

神をその身に宿している祭祀王のほうが偉い存在だった

- 縄文時代にイザナギ、イザナミという役職は存在した

弥生時代にイザナギ、イザナミという役職は消滅した

- 自分たちの子供16人を16方位に派遣した

- 日本に戻ってきた3氏族が、アマテラス、スサノオ、ツクヨミ氏族であった

- アマテラス、スサノオ: 中東のシュメール地方を統治 ※後に対立し合う

ツクヨミ: ユダヤ系のレビ族 ⇒ 古代出雲族と融合: 大和に

- アマテラス氏族とスサノオ氏族の結婚 ⇒ 宗像三女神 = スセリ姫 (実は一人): 親権

はスサノオ氏族に ⇒ 出雲の祭祀王

スセリ姫 (祭祀王) は、中東系の外国人の大国主 (統治王) と結婚 ⇒ アジスキタカヒコネ (八咫鳥)、下照姫 (祭祀王、瀬織津姫)

スサノオ氏族とツクヨミ氏族 (神大市比売) が結婚 ⇒ ニギハヤヒ (大和の統治王)

※もともと大和の王(古代出雲族の王)であったナガスネヒコを倒すことでニギハヤヒが王に

下照姫(祭祀王)とニギハヤヒ(統治王)が結婚 ⇒ 天香具山(タカクラジ)、御歳神(かぐや姫、アマテラス氏族・スサノオ氏族・ツクヨミ氏族の血を引く、出雲と大和の統合)

下照姫=高照姫は、何代目かの天照大神でもあり、瀬織津姫でもあった

つまり、かぐや姫は、16方位に派遣された後戻ってきたイザナギ、イザナミから派生した氏族を統合する古代出雲族の女神信仰の祭祀王であったということになる

ツクヨミ氏族の神大市比売は、スサノオ氏族と結婚した後にスサノオ氏族と関係が悪化し、東北の「月の国」に逃れた

かぐや姫は、神大市比売の罪により(前世の罪)スサノオ氏族の出雲国にいたのだが、月の国からの迎えが来て、かぐや姫は月の国に帰っていった  
ナガスネヒコも月の国に逃れた

・純アマテラス氏族4兄弟:アメノホヒ、ニニギ、ホオリ、ウガヤフキアエズ  
ウガヤフキアエズの息子 ⇒ 神武天皇

神武天皇とアジスキタカヒコネ(八咫鳥)の娘イスケヨリヒメが結婚 ⇒ 綏靖天皇(アマテラス氏族とスサノオ氏族の血を引く)

～隠されし東北の神「アラハバキシリーズ」より～

・縄文の、月をシンボルとした蛇女神信仰

・出雲大社や諏訪大社の大きなしめ縄と、蛇の交尾シーンとの類似

・ツボケ族=古代出雲族 アメリカ大陸からやってきた  
東日本の縄文人を支配

・ナガスネヒコは、ツボケ族の長だった

津軽に戻って、晋の一族と融合し、アラハバキ族になった

- ・アラハバキ＝祭祀王・かぐや姫を女神として信仰した

- ・サンカは、出雲神族の諜報機関だった

- ・アラハバキ信仰と、縄文時代からの蛇の女神信仰

アラハバキ神は、5000年前から祀られていた、太陽・月・大地と生命を司る龍神だと伝えられている

- ・蛇の女神信仰は、龍の女神信仰であった

- ・2000年前の北海道の続縄文時代の壁画に、角と羽が生えた人型の生物が描かれており、人そのものは全く描かれていない

- ・古代出雲族と徐福一団は融合し、それによりナガスネヒコが生まれたつまり、ナガスネヒコは古代出雲族の王であり、徐福の子孫でもあった

- ・古代日本は、東日本に日高見国があった

もし、倭国とは別に存在した小さな国が倭国を倒し、日本と名乗ったという旧唐書の後者の説が事実だとすれば、

出雲口伝で伝わる台湾から北上してきた日向族に、巨大な古代出雲族の国が倒されたという話になる

この記述が正しいとすれば、西暦640年代から700年くらいに間に政権が入れ替わり、歴史が隠されてしまったということになる

タイミング的には、蘇我氏が倒される大化の改新とドンピシャである

そして、倒された倭国は東の地へ追いやられた

東の地に新たな国をつくり、それが日高見国であった

蘇我氏は縄文の血を色濃く受け継ぐ倭人であった

蘇我氏が後の蝦夷に繋がった

- ・古代出雲族は西暦640年頃まで大和を支配していた

日向族との戦いを選んだ古代出雲族は東の地で日高見国をつくり蝦夷と呼ばれるようになり、日向族に従う道を選んだ古代出雲族は西へ飛ばされ、島根が出雲と呼ばれるようになった

・事代主≡恵比寿≡蘇我蝦夷 説

・かつて日本の中心にいたのは体中に入れ墨をしていた倭人であり、古代出雲族であった

・蘇我氏や聖徳太子によって編纂された、古事記や日本書紀より前に存在していた歴史書、天皇紀や国記は燃やされてしまった

大化の改新と共に政権が大きく入れ替わり、歴史も大きく作り替えられたということになる

・縄文人は、翡翠という宝石を特に重宝し、約7000年前から翡翠石の加工が始まっていた

メソアメリカのオルメカ文明は約3000年前、マヤ文明は2000年前

世界的に見てもとてつもなく古い

船を使って北海道から沖縄にいたる範囲まで交易を行っていた

・だが、6世紀頃から渡来人がたくさん来るようになり、渡来人から日本の宝である翡翠石を隠すために、翡翠石は作られなくなり、一部のしか産地が知られなくなった

蘇我氏は日本の重大な秘密である翡翠の産地というトップシークレットを握っていた

・大化の改新の直後から翡翠石は全く使用されなくなった

・蘇我氏は、翡翠の秘密を守るために、大化の改新で敗れた際にその証拠を全て燃やした

・翡翠の秘密を知っている蝦夷は東北に逃げていった

・日向族に従った者は、島根の出雲や長野の諏訪にバラバラにされた

・秋田物部文書によると、ニギハヤヒ降臨の地は、秋田と山形の県境にある鳥海山であった

・海外から戻ってきたツクヨミ一団はまず最初に東北に辿り着いていた

文献:日本の起源は「東北」にあった！？隠されし東北の神「アラハバキシリーズ」

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLrd0S07H\\_Wx40wtDF08t\\_FXYe8BFAygme](https://www.youtube.com/playlist?list=PLrd0S07H_Wx40wtDF08t_FXYe8BFAygme)

## 私個人の考察を含む考察

正統竹内文書シリーズの考察によると、瀬織津姫は龍神であり、日本神話において徹底的に存在を隠された神である。

古事記や日本書紀において瀬織津姫をはじめとする女神が徹底的に隠されている。これはつまり、かつて大和を支配していた古代出雲族が信仰するアラハバキ信仰・龍神信仰や、これまでの歴史を徹底的に隠すためだったのかもしれない。

(もしくは古代出雲族が秘密を守るために自ら消失させた可能性もある)

そしてそれをそれほどまでに隠した理由は、西暦640年頃まで大和を支配していた古代出雲族を、日向族が倒したことで国が入れ替わったことが理由であり、歴史を大きく作り替え、日向族の正統性を主張する内容にするために古事記や日本書紀を編纂したのではないかと考えられる。

## ～宮下文書シリーズより～

- ・宮下文書では、アメノフトタマノミコト(左大神)の子孫は蘇我氏、アメノコヤネノミコト(右大神)の子孫は物部氏と書かれている
- 祭祀を取り仕切っていたアメノフトタマノミコトの子孫が蘇我氏であったがゆえに、あれほどの権力があつたのではないか

<https://youtu.be/S86fxNspCME>

- ・西日本にいた縄文人は、鬼界カルデラ大噴火により壊滅的な被害を負った
- ・世界屈指の海洋民族だった縄文人は、生き残りの一部は東日本のほか、大陸を目指して旅に出た
- ・中東に辿り着いた縄文人がシュメール人になった
- ・西日本こそが人類発祥の地であり、ここからあらゆる人類が旅立っていったともされる
- ・世界に旅立った五色人の長は、世界に出てから数年に一度再び日本に集まり、世界平和について話し合った

- ・1万年以上続いた縄文時代はまさに理想郷であった
- ・TOLAND VLOG チャンネルの「東北シリーズ」「出雲口伝」で話した内容は、東日本に行き着いた(または大噴火の被害を受けずに残った)縄文人の系譜の話
- ・正統竹内文書の内容は、西日本の話であり、鬼界カルデラ大噴火によって日本を出たのが、アマテラス・スサノオ・ツクヨミをはじめとする氏族であった
- ・同じ中東に旅立ったアマテラスの系譜は最初は祭祀王を務めてたが、後にシュメール人のスメラ王国に、スサノオの系譜は最初は統治王を務めてたが、後にエラム王国に次第に敵対した結果分かれた
- ・アマテラス・スサノオ・ツクヨミは日本に戻り、アマテラスとスサノオの中東での因縁は日本でも続いた
- ・ツクヨミの一族の一部は、東日本の古代出雲族と合流した
- ・7千年間は、古代出雲族の王が日本を統治していた
- ・古代出雲族の王であったナガスネヒコは、イワレビコに倒され、東北に逃げた
- ・イワレビコはアマテラスの子孫

<https://youtu.be/ZroRBi-ndnA>

～正統竹内文書、出雲口伝、竹取物語、桃太郎、卑弥呼、浦島太郎から読み取れる  
 真実の歴史～

- ・鬼界カルデラ大噴火
- ・西日本縄文文化壊滅
- ・生き残りの縄文人海外へ渡る
- ・海を渡った西日本の人々がシュメール文明などを立ち上げる

・縄文時代全盛期(東日本の人々)  
⇒出雲族と呼ばれる存在になる

・出雲族  
東北にルーツを持つ  
月の女神信仰  
龍神信仰  
男性統治王より女性祭祀王が偉い  
王権交代時の統治王:富ノ長髓彦

・西日本にスポットを当てたのが正統竹内文書  
東日本にスポットを当てたのが出雲口伝

・ツクヨミ系氏族:秦氏、古代出雲族と融合

スサノオ系氏族:元は出雲族ではないが、日本に来てから古代出雲族と融合  
またはアマテラス系氏族と結婚

アマテラス系氏族:台湾から北上してきた日向族

・日向族が大和に君臨していた富ノ長髓彦を倒して、日向族のトップ神武天皇が即位  
富ノ長髓彦は東北に逃亡し、日高見国を建国  
後の蝦夷となる 子孫は安部氏・富家など

・初代神武天皇から四代目の天皇くらいまでは順調であった

・だが、徐々に近隣諸国との小競り合いが始まってしまい、大戦争へと発展してしまう  
⇒魏志倭人伝に伝わる倭国大乱

・大敗した結果、日向族は大和を奪われて九州にまで戻った

・その間長い間、吉備国を支配していた温羅一族と戦っていた  
(桃太郎の鬼のモデルとなった一族)

・卑弥呼を祭祀王とすることで混乱を鎮めた  
卑弥呼=ヤマトトヒモソノヒメノミコト

卑弥呼(日巫女)の母は出雲族の姫君であった  
つまり、このタイミングで出雲族の権力が再び復活したことになる

統治王:孝元天皇(日向族)

祭祀王:日巫女(出雲族)

この時代は、日向族、出雲族以外にもいろいろな国が入り乱れていた時代であったと  
考えられる

・これまでのまとめ

もともとは、古代出雲族が日本を統治していて、女性がトップの祭祀王のシステムであ  
った

だが、渡来系の民族が日本にどんどん入ってきたことで倭国はとんどん混沌としてきた  
そして倭国大乱の頃には、大和の取り合い合戦になっていた

出雲族の祭祀王の日巫女がトップになるまで混沌とした時代が続いていたことになる

・浦島太郎は、温羅一族の者であった

浦島太郎は、出雲族の巫女を助けた後、故郷に戻ると滅ぼされていたという物語にな  
る

・日巫女が亡くなり、再び男性が祭祀王を務め始めると再び世は乱れ始めた  
(第二次倭国大乱)

・越国、丹波国、東海に強力な敵がおり、将軍を次々に派遣していった

・第二次倭国大乱が起こった崇神天皇の時代に、出雲国王家が排除され、出雲国王  
家は東北に逃れた

・出雲国の残党が暴れまくったため、出雲族の王族の血を引く者を神主としたことで混  
乱は再び鎮まった

出雲の神様を再び祀ることで戦争は収まった

・ツクヨミ氏族のトップがニギハヤヒであり、神武王朝以前の時代に日本に降り立ち、中  
心地である大和を目指した

そしてニギハヤヒは大和を統治していた古代出雲族の統治王ナガスネヒコと対峙した

古代出雲国は女系優位社会であり、女性祭祀王が最も強い力を持っていたので、王族の姫君とさえ結婚できればいけるとニギハヤヒは考えた  
そしてニギハヤヒは、古代出雲国の姫君である高照姫(下照姫)と結婚することに成功した  
そしてニギハヤヒは古代日本の初代統一王(統治王)となった  
(海部氏王朝)  
浦島太郎はこの初期王朝の末裔の可能性はある

・その後、日向族がやってきて、ニギハヤヒを倒し、古代出雲族の祭祀王と結婚することで神武王朝が誕生した

・敗北した海部氏は、丹後国、若狭国に散り散りになった  
散り散りになった海部氏から、隼人や犬養氏が生まれた  
そして彼らの隠れ里が龍宮と呼ばれるようになった  
共に日本にやってきたツクヨミの子孫が秦氏、物部氏となっていく

・海部氏王朝、神武王朝の初期の頃は、古代出雲国の姫君と結婚できたら勝ちという流れで、いろいろな氏族がそこを狙っていった  
崇神天皇の時代でついに古代出雲族さえも排除して、権力を奪う形となってしまった

・古代出雲族の一部は朝廷に取り込まれたが、ほとんどは蝦夷として逃れる形となった

## ●以上の情報をまとめると

・もともとは古代出雲国が日本に何千年もの間君臨していた

・そこにツクヨミの子孫ニギハヤヒの一族が渡来  
古代出雲国と結びついて、初代統一国家の海部氏王国が誕生

・だが、海部氏一族は九州からやってきた日向族に敗北し、日本中に拡散した  
丹後国海部氏、若狭国海部氏となり、海人族、隼人、犬養氏となった  
彼らの隠れ里は出雲族の「龍」、海人族の「海」を合わせて、龍宮として伝えられた

## ●その後

・龍宮や蓬莱と呼ばれる隠れ里に住んでいたが、その一族が温羅一族と呼ばれるようになった

・温羅一族との争いが、第一次倭国大乱

・第二次倭国大乱の頃には、王の象徴である古代出雲族さえも排除し、崇神天皇の時代に新たな王朝が生まれた

・古代出雲国の王族、大彦は大和を追放され、東北で新たな国を立ち上げた  
大彦の子孫は蝦夷と呼ばれるようになった

・大彦の一族は若狭国にも渡っている  
若狭国には海部氏も行っている  
若狭国に住んだ大彦の子孫が、八百比丘尼の高橋さんになった

・若狭国には、大彦の子孫、安部氏の安倍晴明の末裔である土御門家もある

・竹取物語の竹取の翁の正体は古代出雲族であった  
そしておばあさんは犬養氏であり海部氏の子孫であった  
その娘がかぐや姫  
かぐや姫が月の国、ツクヨミに帰っていった

文献:<https://youtu.be/3qmih9FSNTM>

～その他の情報～

・蘇我氏＝スサノオ氏族である説

文献:<https://youtu.be/wBGbGMvnIEo>

私個人の考察

これまでの上記に書いた情報によると、物部氏はツクヨミ氏族の子孫である可能性がある。

蘇我氏:スサノオ系

物部氏:ツクヨミ系

であるとするならば、もともと日本に存在した古代出雲国にツクヨミ氏族が接近し、海部氏王朝が誕生した

その際にスサノオ氏族は海部氏王朝に取り込まれることとなったと考えられる。

つまり、ツクヨミ氏族とスサノオ氏族は共に古代出雲国と融合する形で権力を握っていき、ツクヨミ氏族とスサノオ氏族の権力争いは物部氏と蘇我氏の対立という形で続いていたのであろうと考えることができる。

そして最終的に、アマテラス氏族がツクヨミ氏族・スサノオ氏族・古代出雲族全てを排除することで権力を掌握していったと思われ、その大きな出来事が大化の改新であったと思われる。

また、以上のことから、実際にアマテラス氏族が権力を掌握したのは、崇神天皇の代または大化の改新の時点であるということがわかる。

だが、日本神話においては神武天皇の代で日本が統一されたような記述になっている。

これはおそらく、神武天皇～崇神天皇または大化の改新の代までかかったエピソードやそれまでの天皇の功績を全て神武天皇に集約させたのではないかと考えることができる。

神功皇后の代以降から渡来人がたくさん来るようになり、その中でいろいろな技術や知識を持って渡来してきた弓月君という存在がツクヨミ氏族と被る部分もある。

弓月君は後の秦氏とも繋がることからツクヨミ氏族と被る部分がある。

仁徳天皇の功績や特徴と大国主の功績や特徴も似ている部分がある点も気になる点である。

もしかしたら、日向族が大化の改新の時に古代出雲国を平定した際に、古代出雲国のこれまでの歴史の功績を、日向族の大王が行ったかのように歴史を作り替えた可能性も考えられるような気がする。

・ニギハヤヒ=大国主 説

文献:<https://youtu.be/7O0fdJT25f8>

私個人の考察

日本神話にある出雲の国譲り、大和の国譲り、そして後の大化の改新は実は同じ出来事だったのではないかという説も浮上してくる。

古代出雲国は、スサノオ氏族、ツクヨミ氏族、古代出雲族の連合国であり、つまり、蘇我氏、物部氏、古代出雲族が共同で縄文文化を継承した国家を運営していて、そこに後の天皇率いる日向族が西から北上してきた。

そして、大化の改新と共に古代出雲国は征服され、古代出雲国のこれまでの歴史を全て日向族が行った功績とする形で日向族の正統性を主張する形で歴史を書き換えたのではないかという考察もできる。

古代出雲国はもしかしたら、蘇我氏、物部氏が統治王を務め、古代出雲族の女性が祭祀王を務める統治王、祭祀王の形態を取った国家運営を行っていたのかもしれない。

そして祭祀王が最高権力を持った女神信仰の国家だったのであろう。

そこに日向族が来て古代出雲国を征服したことで天皇制の国家になったのかもしれない。

もし古代出雲国が代々務めた女性祭祀王の歴史を、男性の天皇に当てはめることで歴史を書き換えていったのだとすれば、女神信仰が日本神話から消された理由もそこにあるのかもしれない。

完全に私個人の妄想となるが、古代出雲国の構図は「蘇我氏、物部氏が統治王であり、古代出雲族の女性が祭祀王でありアマテラスという日巫女の側面と月の女神という側面の両方があった」ということだったのであろう。

また、古代出雲族の祭祀王が瀬織津姫とも呼ばれていたとして、瀬織津姫＝天照大神の荒魂 説があると同時に、瀬織津姫＝月の女神、龍神 説もあることから、古代出雲族の祭祀王は、日巫女であり月の女神でもあるということになる。

祭祀王、統治王のシステムは、陰と陽の統合を表していたのかもしれない。

つまり、女性性と男性性の統合であり、女神信仰という女性性を立てることにより、調和が生み出されていたということになる。

～位山について～

- ・正統竹内文書によると神々が最初に降り立った地が位山と言われている
- ・天皇陛下の儀式で実際に、位山のイチイの木でつくられている笏を使っている

- ・位山に入山する前に、飛騨一宮水無神社にご挨拶  
水無神社の奥宮が、位山の頂上付近にある
- ・位山は UFO の目撃情報が多数ある
- ・巨石群がある
- ・頂上付近に天の岩戸があるとされている
- ・ペトログリフも見つかっている
- ・位山の頂上が高天原であったという説もある
- ・太陽御神殿:1953年に都竹峰仙氏という彫刻家が位山を登った時、大龍神が立ち昇って、声を聴き建てられた  
天の常立大御神  
天照日の大御神  
國常立の大御神
- ・大自然位山太古のピラミッド
- ・禊岩
- ・御門岩
- ・臈岩
- ・御魂岩
- ・天の岩戸  
ペトログリフが刻まれている  
ここが一番上で祈っていた  
裏には鏡岩がある
- ・御神水

文献:[https://youtu.be/KeBjEOhYA\\_w](https://youtu.be/KeBjEOhYA_w)

～岐阜県飛騨地域にある金山巨石群について～

・岩屋岩陰遺跡

巨石自体が太陽の観測所になっている

古代の人は、この岩を見て、春分の日、秋分の日、夏至や冬至を測っていた

冬至の太陽に沿って削れている巨石

北斗七星をそのままトレースされたかのように表している穴

秋分の日にぴったり太陽が差し込む巨石

1つ1つの石の中の磁場が全部違う方向を向いていることから、人為的に巨石を動かして設置していないとおかしいということになる

少なくとも4～5千年前の縄文時代中期に設置された

夏至の太陽観測ができる巨石

計算され尽くされている構造になっている

宇宙のことを熟知していないと造れない

現代の科学でも造るのは非常に大変

すぐ近くの祠には、乙姫伝説がある

龍蛇の姿をしたお姫様の伝説

文献:<https://youtu.be/YaSdgEr0K0E>

～この世の秘密が記された「皆神山」について～

## ・皆神山

昔から神の宿る山、あるいは霊山として信仰の拠点であった  
天の岩戸伝説がある

世界最大で最古の皆神山ピラミッド

皆神山の造山方法はエジプトのピラミッドのように人の労力ではなく、  
重力制御技法によって当時、長野盆地が遊水湖沼だった岸のゴロタ石など堆積土砂  
石を浮揚させ、空間移動させるダイナミックな方法であった

その影響で今でも皆神山山塊だけが非常に軽く負の重力異常山塊になっている

皆神山は、古い古墳時代や弥生時代、更に遡っての縄文時代やエジプト・インダス・  
黄河・シュメール各文明よりずっと古い今から2～3万年前の超古代ともいうべき遠い  
旧石器の時代に造られた

この皆神山を造ったのは、古事記に出てくる須佐之男命で現代科学とは全く異質では  
るかに優れた高い知的能力をもつ人類であった

(旧人ネアンデルタール人系)

須佐之男命:自然主義的な科学技術者の集団の総称

墳墓ではなく、地球上の各地や宇宙空間への航行基地として造られた

皆神山ピラミッドの祭神は、知力・体力の神

超太古の宇宙航行基地である皆神山の祭神は従って、高度の知的能力集団で宇宙  
航行や宇宙基地に関係する四神

熊野出速雄命:宇宙船(天の羅摩船)等の航行技術・管理を引き継いだ最後の集団  
で、北信地方の開拓祖神

少名毘古那神:宇宙船で皆神山航行基地を離着した大国主命の参謀集団

泉津事解男神:皆神山航行基地をはじめ全宇宙基地を管理した集団

速玉男神:地球周回軌道の人工衛星(宇宙航行の中継基地)の技術者の集団

このように皆神山は神々が活躍した基地であり、宇宙船で現れたり姿を消したりしたので、自然人たちは神聖な山＝高天原として崇め、後世に伝えた

- ・大国主、ニギハヤヒ、タケミナカタ、このあたりは宇宙人感がある

- ・北極星信仰、宇宙信仰

縄文中期、シュメール

文献:<https://youtu.be/1Kxybw0S394>

～TOLAND VLOG の単発動画含めた動画にて～

- ・日本は世界の縮図である

日本は神の国であり、世界のモデルとして神が最初につくった

- ・人類の起源であるアフリカ大陸は九州に該当する

[https://youtu.be/cgZ5Zj0nW\\_8](https://youtu.be/cgZ5Zj0nW_8)

～シュメール神話考察回より～

- ・旧約聖書のアブラハムは、元々は月神ナンナ信仰であった  
月神ナンナと女神イナンナは同一視されていた可能性がある

- ・また、シュメールやアッカドにおいて、元々は女神だった太陽神を男性神に変えている可能性があり、元々は太陽神も女神だった可能性がある

- ・シュメール文明の中でも、最も古い信仰は女神信仰であり、女神イナンナが最高神だった

女神イナンナが中心だった時代の神話は、破壊されている可能性がある

- ・スサを首都とするエラムも、女神ピニキル信仰であった  
女神ピニキルと女神イナンナも同一視できる可能性がある

- ・男性神による女神信仰弾圧の流れは、かなり早い段階から世界中で存在していた可能性がある

<https://youtu.be/zcljbi36N0s>

- ・最初は蛇をシンボルとする女神信仰だったのが、徐々に雄牛をシンボルとする男性神が台頭してきた

- ・シュメール王名表に記される女王クババは、子孫繁栄・豊穡を表すシンボルであるザクロを持っている

つまり豊穡の女神であり、豊穡の女神イナンナと同じ特徴を持っている

- ・また、果物のイチジクを持っている

古代エジプトにおいては、イチジクは神々の樹とされていた

古代ギリシャやローマでも、イチジクを聖なる木として崇めていた

北部アフリカでは、イチジクの実は豊穡の象徴だけでなく、現世と祖先の国を繋ぐものと信じられていた

イチジクは女性のシンボルとして考えられていて、インドやイラン系の大地母神のシンボルもイチジクであった

ミトラ教においても、母性的なイチジクの木を崇拝していた

- ・イチジクには「知恵」という意味もあった

旧約聖書において、アダムとエヴァが善悪の知識の実を食べたエピソードがあり、その善悪の実にはイチジクであった可能性が高い

- ・古代ギリシャやローマにおいて崇拝されていた大地母神である女神キュベレーは、女王クババと同一視されている

キュベレーの名前の由来は「知識の保護者」であった

- ・女神イナンナは、別名エデンの女主人であった  
エデンはアダムとエヴァが追放された楽園である

- ・キュベレーの御神体は、隕石であった  
つまり、キュベレーは宇宙からやってきた

宇宙からやってきた女神が人類に知恵を授けたということになる  
最初の女性エヴァに知識を授けた

・イスラム教の開祖である預言者ムハンマドの預言に、最後の審判の日に黒石に封印された女神が復活することを示唆する預言がある

・ホピ族の伝説に、大いなる清めの日が近づいた時にツトカゲ女が現れるとされている伝説がある

・出雲口伝には、龍神・女神アラハバキを信仰したとされる口伝が残されている

<https://youtu.be/kjHZ6oifu58>

～旧約聖書考察回より～

・フリーメイソンの解釈では、ニムロデが造ったバベルの塔は「初めて神に反逆した人類による世界統一の最初の試み」とであると肯定的に考えられている

・これに近い考え方に、グノーシス主義がある

グノーシス主義とは「自己の本質や真の神について認識していこう」という考え方  
グノーシス主義では聖書における善悪が逆転しており、聖書の神ヤハウエ(雄牛)を偽の神として扱い、聖書では悪魔とされる蛇こそが人類に知恵を授けた真の神だとして崇拝されている

・多くの神話では、かつて人類は1つの言語を使っていたとされている

ホピ族の伝承では、最初の人間コパピは宇宙と直接繋がっていたため、言葉が必要なかったとされている

宇宙との繋がりが閉じられたことで、言葉を使わざるおえなくなった

<https://youtu.be/CpGuJZp6zQU>

・アブラハムとその父テラは、最初はヤハウエを信仰していなかった

テラとアブラハムが元々住んでいたウルとハランは、月神ナンナを信仰していた

<https://youtu.be/O5DvsWqVLgc>

・シュメール神話と旧約聖書の神話との共通場面、旧約聖書の神話と日本神話や文化との共通場面が多々ある

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLrd0S07H\\_Wx67luBqUPhn8ttrfzZ7YH\\_s](https://www.youtube.com/playlist?list=PLrd0S07H_Wx67luBqUPhn8ttrfzZ7YH_s)

- ・カナンの地ではかつてアシェラという神様を信仰していた  
アシェラは、カナンの地において広く崇拝されていた神々の産みの親であり、豊穡を司る女神であった  
そのアシェラの夫は最高神エロヒムであった  
唯一神ヤハウエの原型が最高神エロヒムであった可能性がある  
ユダヤ人は実はカナン社会に元々いた人たちで、カナン社会における少数派文化であった  
多神教のカナン社会の中で、唯一神信仰が徐々に形成されていき、唯一神ヤハウエはカナン社会に存在した様々な神様の集合体であったという説がある
- ・また、シュメール神話の最高神エンリルもヤハウエのモデルだとされている  
偶像崇拝禁止は、元のモデルの神様がわからないようにするためだったのかもしれない
- ・ヤハウエのライバルとして出てくる後に悪魔として扱われることとなるバアル神は、ヤハウエの原型であるエロヒムと女神アシェラとの間に生まれた息子であった
  
- ・古代日本には、バアル神信仰の人々やヤハウエ信仰の人々、様々な民族が訪れ、混ざり合い調和していったのかもしれない

<https://youtu.be/tQEG0CAnPP4>

#### 私個人の考察

つまり、原初の世界は、女神信仰が中心の「女性性」の強い世界であり、大地母神・太陽神・月神を含む宇宙の大いなる循環と一体となった世界の中で人類は生きていたのかもしれない。

このような世界において、宇宙との繋がりも濃く、宇宙からの情報、つまり知恵も宇宙から授かっていたのかもしれない。

また、原初の世界の人類は、宇宙と直接繋がっていたため、言葉が必要なかった。宇宙との繋がりが閉じられたことで、言葉が生まれたのであろう。

～北欧神話より～

- ・ピラミッドは巨人が造ったのかもしれない

- ・世界樹の幹に人間が2人逃れている

この2人は生き残るだろう

終わりはない 古い時代が終わり、新しい時代が始まるだけ

全ては一度終わり、また新しい時代が始まる

それがこの世界

- ・そして大洪水が全てを流し、全ては終わった

終わりがあれば、また始まりがある

世界の始まり

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLrd0S07H\\_Wx490dN8ukP9hOw3RpJChMX2](https://www.youtube.com/playlist?list=PLrd0S07H_Wx490dN8ukP9hOw3RpJChMX2)

～巨石文明より～

- ・古代の巨大建造物の多くは、春分の日、秋分の日特別なことが起こるように設計されている

古代の巨大建造物は、巨大な天体時計であった

- ・スフィンクスが見ている真東が春分点

春分点に時に位置する星座をずっと見ている

スフィンクスが水瓶座を観測した時に、何かが起こる？

縦に侵食した跡がある つまり、1回水に浸かっている跡がある

⇒洪水伝説

- ・スフィンクスが魚座を観始めた時に生まれたのがイエス・キリスト

時代が大きく変わった

- ・水瓶座を観始めた時に、変革期が訪れる

神々の審判が訪れる

それがあることを告げるための天体時計が古代の巨大建造物だったのではないか

・シュメール神話において、人類創造の計画に携わった神がエンキとニンキシジッタであった

そのニンキシジッタがエジプト神話に出てくるトト神であり、後々にピラミッドの建設に関わったという説もある

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLrd0S07H\\_Wx5kv6BXJDcoJNtidLflfzyc](https://www.youtube.com/playlist?list=PLrd0S07H_Wx5kv6BXJDcoJNtidLflfzyc)

～ギリシャ神話より～

他の神話との類似点

- ・混沌から最初の神様が生まれる
- ・天空の神と地上の神が結婚する
- ・大洪水

<https://youtu.be/TVACaJ8IANY>

※狩猟文化のシャーマニズムの世界観にはなく、農耕文化の時代になってから「天空の神と地上の神が結婚する」という概念が生まれたところも興味深い点である

～マヤ文明より～

- ・高度な天文学の知識があった
- ・マヤ人は、プレアデス星団が自分たちの故郷だと思っていた
- ・ピラミッド群を造っている  
ピラミッドがプレアデス星団の配置と全く同じに造られている
- ・マヤ人の最終目標は、家族、社会、自然、宇宙と調和することを目指していた

•かつて高い精神性と調和を持っていたけど、次第に人口が増え、都市国家が乱立し、調和が乱れたことで指針を失い、生け贄文化が復活する等暴走していった形跡がある

•都市国家が乱立し、緑地が減り、繁栄をむさぼり出して戦争が起こり始め、人々が神の存在を忘れていった  
そして大洪水が起こった

•4回目の創造で誕生した人類は、神に匹敵する知性と倫理観を持っていて、第六感が発達していた  
神々は、ハイスペックすぎる人類を見て、目を曇らせて三次元しか見えないようにさせた

•人類の創造に宇宙人が干渉していた可能性がある  
異様に高度な天文学の知識も宇宙人が干渉していた可能性がある

•マヤ人の精神性の高い人たちは、長期歴の始まりの頃に宇宙人により UFO に吸い上げられた  
それと引き換えに宇宙人からとうもろこしがもたらされた  
精神性の高い人たちは宇宙人に連れ去られ、そうでもない人たちは地上に残された結果、次第に自分たちの指針を失っていき、調和が乱れて滅んでいった

•宇宙の意志フラカンのビジョンが調和だった

•フラカンが創造する前にすでにカバウイルという存在がいた  
カバウイルは世界を維持するために重要なエネルギー  
陰陽みたいに2つの相反するヴィジョンによって成り立っているエネルギー  
•調和とエゴを意図的に競い合わせることで人類を成長させているのではないか

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLrd0S07H\\_Wx4Ks2apdfly-FkffHYZmVQpM](https://www.youtube.com/playlist?list=PLrd0S07H_Wx4Ks2apdfly-FkffHYZmVQpM)

【アメリカの預言書オアスペについて ※真実の歴史を知る鍵かもしれない】

- ・我々が住む物質世界は、霊界や神界に管理されている
- ・物質的なことを学べるように、人間に肉体を与えた  
霊性を高めるために
- ・神の世界にいずれ帰ってこれるように死を創造した
- ・肉体を持つ人間と、霊的な天使というのは根本的には同じ存在
- ・木に生命を与えた 人間には生命と霊を与えた  
人間の霊は物質世界とは別のものである(神の分け御霊)
- ・初めての人類アスは、同時期に創られた他の動物とは違い、霊を与えられた  
それにより「知識」「力」「統治」の能力が授けられた
- ・初めての人類アスは、これらの力をうまく使うことができなかった(霊を持つこともでき  
なかった)
- ・アスが誕生してから6000年後、人類に霊を与えるために、宇宙中から霊を呼び集め  
た(他の物質世界で亡くなった宇宙人の霊)
- ・宇宙人の霊を地球に集めて、肉体を持たせた  
こうして「天使」と呼ばれる存在は創造された  
不完全なアスを正しく導くために天使が創造された
- ・地球の管理者に、同じ神界にいる大天使に任せた
- ・天使とアスが交配し、新しい人類イヒンが誕生した  
霊界や神界の存在を理解できる人類であった  
天使はイヒンを守護した
- ・イヒンは都市国家を創って繁栄した
- ・自身の霊性を高め、かつ自分より霊的に未熟な存在を成長させることがさらなる霊性  
を高める

・ドルーク、ヤク、イファンという別の人類が誕生し、(その間にアスは絶滅し)争いの時代が始まった

イヒン以外の人類は、靈的感性に乏しい一方、肉体は強かった

だが、地球の大変革により、イヒンを除いた人類は大絶滅し、イヒンが生き残った

地球に生き残った人類は心を改めた

そしてイヒン繁栄の時代が始まった

・地球上に様々な文明が発展していく中、パン大陸が特に発展した

(今の日本に繋がる大陸、ムー大陸)

世界に5つの文明が発展していく中、イヒンがたくさん住むパン大陸は特別で、その大陸

の上空には地球の神や天使たちが活動しているホアドという世界があった

船を建造し、世界中を航海した

・このような繁栄の一方、イヒンは靈的なことに偏り過ぎてしまった

結果、肉体的には衰え、繁殖能力が低下していった

・細々と生きていた、肉体的には強かった別の人類が再び繁栄し始めた

結果、再び争いの時代が始まった

・地球上のほとんどの場所でイヒンたちは滅ぼされていった

唯一、パン大陸だけがイヒンが生き残った

・そんな中、文明の中心地だったパン大陸は海の底に沈んでいった

(神話にある大洪水伝説)

・イヒンたちは船で脱出した

5船団に分かれて世界へ旅立った

・世界に旅立ったイヒンたちは、各地で他の人類と交わった

それにより誕生した人類が、現生人類となった

・沈んだパン大陸の切れ端が残り、そこが日本となった

・パン大陸だったところ以外の、世界中に旅立ったイヒンたちは、他の人類と混血し、

純粋なイヒンは滅亡し、混血した現生人類が残った

唯一、日本のみイヒンが生き残った  
(縄文文化はイヒンによるものである)

- ・日本は、天国の御業を解き放つ鍵である  
(古神道、カタカムナ)
- ・宗教という概念が無くなった時(宗教の垣根を超えた時)世界は平和になる

文献:

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLrd0S07H\\_Wx6KUy9mmksA1GONGKnVnzfa](https://www.youtube.com/playlist?list=PLrd0S07H_Wx6KUy9mmksA1GONGKnVnzfa)

～私個人の考察を含む考察～

>木に生命を与えた 人間には生命と霊を与えた  
人間の霊は物質世界とは別のものである(神の分け御霊)

- ・生命を与えたの「生命」とは、国津神のことであり、地球由来の魂(地母神の分け御霊)であると解釈できる
- ・霊を与えたの「霊」とは、天津神のことであり、宇宙由来の魂のことであると解釈できる

>宇宙人の霊を地球に集めて、肉体を持たせた

- ・正統竹内文書における「プレアデス星団の星々の魂が人類の魂の祖先となった」に一致する

>我々が住む物質世界は、霊界や神界に管理されている  
物質的なことを学べるように、人間に肉体を与えた  
霊性を高めるために

・シュメール神話から考察すると、実は地球上には最初神々しか存在していなく、宇宙側の天空の神のサポートによる、大地の神、大気の神含む、「地球由来の神」の学びの場として地球は存在していたのではないか  
その地球由来の神々の学びの一環として、神々の労働力として人間は生み出され、神々そのものも学びの過程として、動物や人間と神々との関わりが行われていったのであろう

>地球上に様々な文明が発展していく中、パン大陸が特に発展した  
(今の日本に繋がる大陸、ムー大陸)

世界に5つの文明が発展していく中、イヒンがたくさん住むパン大陸は特別で、その大陸の上空には地球の神や天使たちが活動しているホアドという世界があった  
船を建造し、世界中を航海した

>イヒンたちは船で脱出した  
5船団に分かれて世界へ旅立った

・正統竹内文書における「イザナギとイザナミの間に儲けた16の皇子と皇女を、世界中の16方位に派遣することで、不安定な世界を統治していった」に該当する

・ホアドとは、日本神話における「高天原」に該当する

・TOLAND VLOG の東北シリーズにおける、  
縄文人は、翡翠という宝石を特に重宝し、7000年前から翡翠石の加工が始まっていた

メソアメリカのオルメカ文明は約3000年前、マヤ文明は2000年前  
世界的に見てもとてつもなく古い  
船を使って北海道から沖縄にいたる範囲まで交易を行っていた  
にも該当する

>唯一、日本のみイヒンが生き残った  
(縄文文化はイヒンによるものである)

・縄文文化や、もともとは女神信仰だった古神道、これらの原初の信仰がイヒンたちによる信仰であり、天国の御業を解き放つ鍵であると思われる

> 文明の中心地だったパン大陸は海の底に沈んでいった  
(神話にある大洪水伝説)  
イヒンたちは船で脱出した  
5船団に分かれて世界へ旅立った  
世界に旅立ったイヒンたちは、各地で他の人類と交わった  
それにより誕生した人類が、現生人類となった  
沈んだパン大陸の切れ端が残り、そこが日本となった  
パン大陸だったところ以外の、世界中に旅立ったイヒンたちは、他の人類と混血し、純粋なイヒンは滅亡し、混血した現生人類が残った  
唯一、日本のみイヒンが生き残った  
(縄文文化はイヒンによるものである)

・TOLAND VLOG 宮下文書シリーズにおいて、  
西日本にいた縄文人は、鬼界カルデラ大噴火により壊滅的な被害を負った  
世界屈指の海洋民族だった縄文人は、生き残りの一部は東日本のほか、大陸を目指して旅に出た  
中東に辿り着いた縄文人がシュメール人になった  
西日本こそが人類発祥の地であり、ここからあらゆる人類が旅立っていったともされる  
がまさに該当する  
(海の底に沈んだという描写と、大噴火という描写の違い以外は一致する)

・日本のみイヒンが生き残った、そのイヒンこそが東日本の縄文人、つまり古代出雲族であったと考察できる

・(TOLAND VLOG の動画にて)  
日本は世界の縮図である  
日本は神の国であり、世界のモデルとして神が最初につくった  
人類の起源であるアフリカ大陸は九州に該当する

～TOLAND VLOG 正統竹内文書シリーズ、東北シリーズを含めた考察～

パン大陸が沈み、世界中にイヒンたちが旅立った

世界中に旅立ったイヒンたちは、各地で混血し、現生人類となった  
沈んだパン大陸の切れ端である日本にのみ純粋なイヒンは生き残り、縄文文化をつく  
った  
縄文文化を継承したのが古代出雲族であった  
やがて、アメリカ大陸や晋、伏羲一族らが日本にやってくるのは融和していった  
それを正統竹内文書では、日本から世界に拡散した後、再び日本に戻ってくる描写と  
して描いているのだろう  
こうしてイヒン文化を継承した古代出雲族は日本を統治するが、西の大陸から日向族  
が日本に戻ってきた  
彼らは古代出雲族との融和ではなく、日本を乗っ取る選択をした  
結果、日向族は勝ち、日本を統治し、敗れた古代出雲族は蝦夷として東北へ逃げの  
びた  
それにより、古代出雲族が信仰していた女神信仰や、古代出雲族の歴史は神話から  
隠され、歴史が書き換えられた  
このような出来事は世界的にも起こったと考えられる

## 【ホピ族の伝承について】

・ホピ: 平和の民

全ての繋がり、自然のバランスがまわり続けますようにと、調和を祈り続けている  
遙か昔、宇宙を創った創造主から直々に調和を祈り続ける役割を約束されている  
ホピ族が約束を捨てた時、世界のバランスが崩れる  
1年中祈りの儀式を行っている

・世界のあらゆるものにカチーナという精霊が宿っているとされている

・天空のオリオン座と同じ形で集落をつくっている

・マヤ文明では、世界創造の日に地上世界や生命の木がオリオン座の近くまで吸い上げられたとされている

・マヤ文明の基礎をつくったのはホピ族の先祖であるとされている

・マヤ文明の先古典期から古典期の移行期に、独自に移動してきたとされている

・年代的に大洪水が起こった直後くらいからずっとホピ族としての形があるとされている

・グレートスピリットに導かれて今の土地にホピ族は住み始めた  
アメリカ大陸の背骨と呼ばれる場所で、自然界のエネルギーがすべて集まる場所  
この場所に異変が起こると世界に異変が起こるとされるくらい  
ホピ族はこの場所を見守っている  
神様から告げられた様々な情報や預言が受け継がれている

・この世界は4回目の時代

つまりこれまで人類は3回滅んでいる

この過ちを繰り返さないためにホピ族はいろいろな工夫をしている

・現代の世の中はまさに転換期を迎えている

～ホピ族の神話～

・最初、無限の宇宙が存在していた

この無限の宇宙の全てを統べる存在が、創造主タイオワ

- ・タイオワはある計画を思いつく

自分以外の様々な生物を創り、共存・共栄する世界を創ろう

創造主タイオワ視点では映画を観るような感覚で、そういう世界を創って見てみたいと思った

その過程を見たいと思った

- ・そして、そういう世界を創る存在を自分以外で別に創った

そして世界を創る存在としてソツクナングが生まれた

タイオワはソツクナングに、理想的な世界の創造を任せた

- ・ソツクナングは、無限の宇宙からいろいろな要素をかき集めて宇宙を誕生させた  
宇宙を9つ創った

- ・タイオワは9つのうちの1つを気に入って、その宇宙を家にした

- ・ソツクナングは調和的な世界をどこに創ろうかと思い、第一の宇宙トクペラに行き、地球を創った

- ・ソツクナングは、地球を任せる管理者として蜘蛛女コヤングティを創った  
コヤングティには何も情報や記憶が与えられていなかった

- ・コヤングティには生命を創る力を与えた  
地球にいろいろな生命を創ることを任せた  
そしてコヤングティは双子を創造した

- ・この双子も何のために生まれてきたのか知らなかった

双子には物凄い能力が与えられていた

双子にこの地球のことをよろしくと任せた

双子の兄:ポカングホヤ

双子の弟:パロンガウホヤ

- ・ポカングホヤはいろいろなものを固める力があつた  
ポカングホヤが何も無い地球の大地を創っていった  
パロンガウホヤは波動の使い手であつた

・コヤングティは2人に、持ち場に着くように促した  
北極と南極に持ち場があった  
この2人には物凄いパワーと磁場があった  
持ち場にそれぞれ着いた瞬間、地球が回り始めた

・コヤングティは、泥で人間を創っていった  
人間は創造主タイオワと約束した  
タイオワの願いは、生物が共栄・共存する世界を創りたい  
創造神を敬い、祈り続けなさい そうすれば平和は維持される

・人間の頭のコパピから、いつでも創造神タイオワと会話できるようにした  
宇宙の情報はコパピから全部キャッチできるようにした  
その約束をしたのは最初4人の人間であった  
赤色、白色、黒色、黄色の人間

・4人の人間から増えていって、世界各地に散らばっていった

・言葉は喋れなかったが、みんな仲良く暮らしていた  
実はコパピでテレパシーを使って会話していた  
創造神タイオワの言う通り、みんなが仲良く暮らしていた

・ただ、コヤングティは人間が言葉を喋れるようにしたかった  
コヤングティはソツクナングを呼んで、人間に言葉を与えてほしいとお願いした

・ソツクナングは人間たちに言葉を与えた  
これまではテレパシーで嘘を付けなかった  
だが、言葉を喋り、テレパシー力が弱まり、コパピも徐々に閉じていき、嘘や邪な事が  
バレなくなっていた

・蛇の姿をしたカトヤに唆されて、徐々に調和が乱れ始めていった  
ソツクナングが久しぶりに来たら、物凄く争いが起きていた

・ソツクナングとコヤングティの協議により地球を滅ぼすことになった  
争いの中でもタイオワの約束を守り、祈り続けている人間もいた

ソツクナングは1人1人に会いに行き、しばらく蟻人間たちと地中の中で暮らすように促した

- そして世界中の火山が大噴火を起こした  
マグマが地表を覆いつくし、冷えて固まるまで地中にいた  
永い時が流れ、人間たちはまた地上に戻った  
動物たちはソツクナングの配慮により生き残っていた

- 動物たちは人間のせいでこうなつたと知っていた  
人間と動物の間で、共栄共存から離れてしまった  
人間たちは、今度こそ調和の世界を創るために祈りを捧げた

- 何代も世代が変わるごとに滅びの記憶は薄れていった  
農作物を自分たちでつくるという概念を生み出した  
自分たちの土地を持つ、所有をすると比較が生まれる  
利己的な人間が徐々に現れてきた  
その中でも、清い心を持ち続けて調和的な世界を目指す人もいた  
心清き人だけは頭頂部にあるコパピが開き続けていた

- ソツクナングは、コパピにメッセージを送った  
コパピで受信した人だけが安全な場所を目指して行った

- 1回目的人类滅亡の時と同様に、蟻人間のいる地中に避難した  
ソツクナングは、ポカングホヤとパロンガウホヤに持ち場を離れるように促した  
その瞬間、地球の自転は停止した  
そして一気に氷河期が訪れた  
(ポールシフト)

- 永い氷河期が終わり、ソツクナングが再び現れた  
良き心を持った人間が再び地表に現れた  
第3の世界クスクルザが始まった  
次こそは創造神タイオワの描く調和的な世界を目指すことに決めた

- だが、再び物質主義にはしる人たちが現れた  
その結果第3の世界クスクルザは非常に文明が発展した  
アトランティス、ムー大陸の時代はこの時代である

文明が発展しすぎて争いの規模も大きくなっていった  
核戦争にまで発展していった

・再び滅ぼすことになった

一部の人間の生存を保証し、大洪水を引き起こした

・そして現在の第4の世界ツアカキが始まった

コヤングティは、生存した人間を豊かな土地ではなく荒地に残した

そしてコヤングティは人間のもとから離れていってしまった

・ソツクナングが現れ、人間たちに「良き心を持ち続けなさい」を言い残し、ソツクナング

も離れていった

・そんな中、第4の世界の導き手マサウーが現れた

マサウーは、今回は形で教えを残すことにした

そして人間を2つの勢力に分け、それぞれに石板を与えた

人間たちは石板の教えを持って世界中をまわるようになった

片方のグループ: 白い兄 東に進んだ

もう片方のグループ: 赤い弟 西に進んだ

赤い弟たちが後のホピ族

赤い弟たちが本当に困った時、白い兄たちは助けに来るとされている

そしてその存在は救世主となる

そしてマサウーは姿を消した

・まだ世界は選べる

何パターンか未来は存在する

・滅びの予兆は9個ある

8個まで予兆が起こった時、ホピ族の教えは全世界に公表された

8個目が原爆であった

1: 白い肌の人間の到来⇒大航海時代の侵略

2: 満ち溢れる回転する車輪の声⇒自動車

3: バッファローに似たツノの生えた獣がやって来る⇒欧州産の牛

4: 鉄の蛇が大地を横切る⇒電車

5: 巨大な蜘蛛の巣が大地に張り巡らされる⇒インターネット、電話線、電気の配線

6: 石の川が大地を交錯する⇒道路

7: 海が黒く変色して多くの生物が死ぬ⇒環境汚染

8: 長髪の若者が現れて部族の生活を学びに来る⇒ヒッピーの出現(多くは薬物依存になっていく)

白い兄弟たちが第一の炎の輪の中で戦い、そして第二の輪の中で戦う⇒第一次世界大戦、第二次世界大戦

灰色の瓢箪が空から落ちてきて、まわりの草木が1本も生えなくなる状況になる⇒原爆

9: 天井にある居住施設が落下してくる、その後青い星が現れてホピ族の儀式は終了する⇒宇宙ステーション

月にハシゴをかけるようになった時、もう時すでに遅し

夏至の日にだけ18個の星が19個になる その19個目の星が青い星 その青い星が地球に迫ってくる

・母なる大地から心臓を抉り出してはいけない

この心臓の資源のパワーは凄いから、これを悪用されないために、ホピ族は大地を守り続けていた

その資源が原爆の原料であった

・1948年にホピ族の長老が伝承を国連に提出した

1978年に受理されて世界に伝承が広まった

・物質的な道に走って行って調和を選ばなかったルート⇒戦争

・物質ではなく精神性を重んじた生き方を選んだルート⇒調和

・白い兄は、太陽のマークを持った人と、鉤十字・卍のようなマークを持った人と、十字を持ったツノカゲ女を連れて、軍隊を引き連れてホピ族の集落に現れる

極西: アメリカ大陸⇒ホピ族

極東: 日本⇒日本人

・世界のいたるところにはポータルと呼ばれる場所がある

空間を飛び越える扉

つまり、地球以外の場所にアクセスできる場所が世界中にある

●■のマーク

空間を飛び越えて出会える人たちは、3次元の存在じゃない

4次元、5次元の存在である

その人たちと常にコンタクトを取るために儀式をしている

- ・アメリカ大陸に降り立ったスターピープルは、地球で活動し、住み始めてた地球に適応するために姿を変えていった  
スターピープルの干渉は世界中で起こっている  
中東に降り立った別の星のスターピープルがアヌナキ

- ・滅びのルート or 調和のルート 確定のタイムリミットは2024年

- ・虹の戦士が世界中から現れる  
古代から伝わる伝説や儀式や神話を受け継いでいる  
全ての人種から現れる  
自分の信じるビジョンを自分の意志で行動に移せる人  
御先祖様、神様、自然に感謝を忘れない人  
自分たちの代だけではなく、7世代後のことも考えて行動する人  
全てが繋がっている 全てが一つ  
虹の戦士は一人一人の心に宿っている  
誰かが助けるのを待つのではなく、一人一人が気付くこと

文献:

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLrd0S07H\\_Wx4cDeRbtOlos-YVrMuF-scy](https://www.youtube.com/playlist?list=PLrd0S07H_Wx4cDeRbtOlos-YVrMuF-scy)

## 【人類の起源、日本人のルーツについて】

TOLAND VLOG『【驚愕】日本人のルーツ編』より

～動画内容1～

・人類に進化する前は、オランウータン、チンパンジー、ゴリラといった類人猿であった

・ある時、類人猿が直立で二足歩行を始めた  
猿人という存在になった

・やがてさらに進化し、ホモ属になっていった  
そして様々なホモ属が誕生していった  
ホモ属同士は子供をつくることが可能であった

・やがて誕生したホモ・エレクトスは世界に旅立っていった  
インド・中東・中国・インドネシア・ジャワ島にまで辿り着いた  
そしてジャワ原人、北京原人になっていった  
そしてネアンデルタール人が誕生した  
当時のアフリカは、いろいろなホモ属が誕生しては世界に旅立つというホモ属誕生ラッシュであった

・そんな中、一切アフリカから動かずにアフリカに残り続けていた人たちがホモ・サピエンスに大進化を遂げた

ホモ・サピエンスは地球上のあらゆる場所に勢力を拡大し、各地で一部の他のホモ属と混血しながら地球上を支配していった

なぜここまでホモ・サピエンスが繁栄していったのか？

それは、認知革命によるものであった

認知革命とは、目に見えないフィクションを信じる力

この認知革命は、後の宗教や神話、文明、国家の創造に発展していった

・ホモ・サピエンスは5万年前に突如として一度に爆発的に世界中に拡散していった  
おそらく何かしらの大きな出来事があったのであろう

○ここまでの内容について私個人の考察

類人猿から、二足歩行の猿人に進化した第一段階の大進化が、宇宙人・神々により行われた人類創造の第一段階の実験だったのではないかと。

そして、ホモ・エレクトス、ジャワ原人、北京原人、ネアンデルタール人といった第二の大進化が第二の宇宙人・神々による人類創造の実験であった。

そんな中、アフリカに留まり続けた人類がホモ・サピエンスに大進化を遂げた。これはおそらく、プレアデス星人や宇宙由来の魂が人類に宿ったことで認知革命が起き、ホモ・サピエンスに進化したのではないだろうか。

～動画内容2～

- ・中東からヒマラヤに向かっていったサピエンスたちが後の日本人に繋がる人たちであった

- ・ヒマラヤに辿り着いた人たちは、ヒマラヤ北ルートと、ヒマラヤ南ルートに分かれた

- ・北ルートの人類と南ルートの人類は、後に再び1万年越しに再会した  
そして、北の人たちの叡智と南の人たちの叡智が混ざったことで独自の文化が生まれ、高度な航海が可能になっていった  
そして日本に航海で降り立った  
この人類が日本に最初に降り立った人類であった(対馬ルート)

- ・その時日本に行かなかった南ルートの一部の人たちは、後に台湾のほうから航海によって、日本に降り立った(沖縄ルート)

- ・一方、他にも別のルートから日本に降り立ったグループがいた  
ヒマラヤ北ルートからシベリアに行った人たちは、やがてアメリカ大陸に行き着いた 後のホピ族もこの一派であろう  
だが、一部の人たちはアメリカ大陸に行かずにシベリアに残った  
そのシベリアに残った人たちが、後に北海道に降り立った(北海道ルート)  
ネイティブアメリカンとアイヌの人たちはルーツが近いとされている理由はここにある

- ・そしてこの対馬ルート・沖縄ルート・北海道ルートの3つのルートの人たちが混ざり合っ  
て日本人となっていた

○ここまでの内容について私個人の考察

ヒマラヤ北ルートと南ルートの人類が混ざり合った後、日本に降り立った人類が最初に日本に降り立った人類であり、おそらくこの津島ルート一派がスサノオ氏族であったと思われる。

その後、沖縄ルートから日本に降り立った一派がアマテラス氏族であり、一方北海道ルートから降り立った一派がツクヨミ氏族であったのであろう。

ホモ・サピエンス以前の旧ホモ属は、地球由来の魂であり、日本神話における国津神であったと思われる。

国津神の信仰は龍神信仰、女神信仰といった、母なる地球・大地母神の信仰であった。

そこに宇宙由来の魂である天津神ホモ・サピエンスが宇宙の叡智と共にやってきた。最初は国津神の信仰である女神信仰に溶け込んでいたが、やがてサピエンスは天地の聖婚という天の男性神と地の女性神による結婚という概念から、男神信仰になっていったのであろう。

女神信仰であった頃は、国津神は大地母神を通して宇宙と繋がり、天津神は宇宙と直接繋がっていた。

だが、次第に眠りの方向に向かい、調和がアンバランスになっていったことにより、宇宙との繋がりは閉じていったと思われる。

大洪水伝説といった人類大絶滅の神話は、もともと国津神の地であった地球に、天津神という存在が外部から進出してきたことによりアンバランスな地球になったことによる結果ではないかと思われる。

天津神の存在にとって今必要なことは、国津神との調和であり、天と地の統合が目醒めに繋がっていくのであろう。

～動画内容3～

- ・ネアンデルタール人との混血はヨーロッパ系の人たちに特に濃く見られ、デニソワ人との混血はアジア系の人たちになるほど特に濃く見られる

- ・日本人は3つのルートの人たちが混じり合って日本人になっていった  
その過程でネアンデルタール人ともデニソワ人とも混血し、さらに後に渡来人がたくさんやってきたことから、特にハイブリッドな人種になっていったのではないか

•もしかしたら、先に先住民としてアジアに住んでいたデニソワ人が高度な技術を持っていて、デニソワ人から高度な技術を教わったのではないかという説もある

•後に、ネアンデルタール人とデニソワ人は絶滅することとなったが、神話の滅ぼされエピソードはここに繋がってくるのではないかとも思われる

北欧神話やギリシャ神話といったヨーロッパに見られる巨人伝説とネアンデルタール人との関係性も可能性としてありえる

文献:

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLrd0S07H\\_Wx56kxNJx6hj4IRDcXCI8tzY](https://www.youtube.com/playlist?list=PLrd0S07H_Wx56kxNJx6hj4IRDcXCI8tzY)

～動画内容4～

•父系の Y 染色体を遡っていった結果、全人類の遺伝子系統は20種類くらいのハプログループに分けられた

•日本人が持つ Y 染色体のハプログループは、  
アジア人に多い O 系統:50% ⇒弥生人由来、中国・朝鮮・東南アジア  
D 系統:40% ⇒異質な系統  
残り C 系統・その他:10% ⇒アジア系で見られる系統

D 系統は縄文人や一部の地域でしか見られない稀な系統

つまり、縄文人はアジアから渡ってきた流れとは全く関係ない全く別の流れを汲むホモ・サピエンスであった

その中でも、D1b 系統は日本国内でしか見つかっていない

•D 系統に分かれる前の、DE 系統も特殊な形で発生している  
今から7万年前に東アフリカに住んでいたある1人の男性に異変が起こった  
遺伝情報に突然変異が起こった YAP 変異  
YAP 変異は DE 系統となった  
この系統が縄文人の祖先であった

•D1 系統のホモ・サピエンスは、真っ直ぐ日本を目指していった

・E 系統はアフリカ付近に集中している  
もしくは、南ヨーロッパ、中東に行った

中東: 古代ユダヤ人

・縄文人は、D1b 系統という世界で唯一の染色体を持つ集団であるにも関わらず、あらゆる遺伝子が混ざり合った混合民族であった  
世界でも稀に見るレベルであらゆる遺伝子が混ざり合っている  
つまり、日本に住んでから世界中から日本を訪れたあらゆる人種の人々を受け入れて  
いったことになる  
異なった価値観・文化・宗教を受け入れ、交わっていった

○私個人の考察

突然変異で生まれた D 系統のホモ・サピエンスは、もしかしたらイザナギ、イザナミが  
天下った人類だったのではないか。

ゆえに縄文人は世界最古級の文明を発展させていき、調和の取れた理想郷を築くこと  
ができたのかもしれない。

さらに考察をすると、もともと国津神の信仰であった女神信仰に、通常の Y 染色体を  
持った人類はやがて男神信仰に変化させていったところを、D 系統の Y 染色体を持  
った人類は調和を取る特性を持っていたために縄文人は女神信仰を継続することが  
できたのかもしれないと考えることができる。

だが、渡来人が多く日本にやって来る中で、やがて戦乱が日本にももたらされ、結果と  
して日本も女神信仰から男神信仰に変わっていった。

目醒めの鍵となるのは、女神信仰の縄文回帰にこそあるのかもしれない。

文献: [https://youtu.be/st\\_tyEczEng](https://youtu.be/st_tyEczEng)

## 【宇宙種族の歴史について(『プリズム・オブ・リラ』)】

～IAC ラボ Channel より～

・リサ・ロイヤルさん(有名なチャネラー)による著書

文献:<https://youtu.be/TstDPYoQns4>

・「大いなるすべて」の一部が琴座の「ホワイトホール」を通過し、七つの周波数帯に分かれた

(宇宙の創造)

第一密度:点の意識。物質

第二密度:線の意識。生物学的な存在

第三密度:立体的な意識。自我

第四密度:立体的な意識。超意識

第五密度:集団意識としての自己の認識

第六密度:次元そのものとしての意識

第七密度:多次元的な経験の認識

文献:[https://youtu.be/6DGQCqSg\\_Zs](https://youtu.be/6DGQCqSg_Zs)

・七つの周波数帯のほかに「創造の礎たち Founders」という集合意識が誕生した  
(全ての銀河系宇宙一族の始祖)

宇宙の全ての設定(ブループリント)を理解した上で、分離により個別の意識に分かれていき、それぞれの周波数に分かれ、様々な宇宙文明が誕生した

文献:<https://youtu.be/dcwdXBIEzec>

・最初の文明:琴座の文明(リラ文明)

・リラ文明(ポジティブ文明)から、ベガ文明(ネガティブ文明)が分かれ、リラ文明とベガ文明は対立した

・この対立を止め統合していこうとする動き(エイペックス文明)が生まれたが、無理矢理統合しようとしたため自滅に向かった

文献:<https://youtu.be/uGTWesMulSE>

- 肉体を持たない選択をした存在たちは、シリウス文明を生み出した
- エイペックス文明とは違った形での統合の流れを望んだ存在たちが、続々とシリウス文明に入植していった
- もともと肉体を持たないシリウス文明だが、支配の原理を望んだ元ベガ人たちは肉体を持ち始めた  
肉体を持たないポジティブシリウス人と、肉体を持つネガティブシリウス人に分かれた
- ネガティブシリウス人は、後に支配の原理を地球で実現しようとしていった  
(地球は我々の領土の一部だと認識している)  
地球人に眠りの遺伝子暗号が埋め込まれているのはそのため

文明:<https://youtu.be/ovZlxKYsQEA>

- ポジティブシリウス人とネガティブシリウス人の紛争は、オリオンに場所を移すことで解決が試みられた
- だが、長い紛争は続いていった(オリオン戦争の記憶は後に映画スターウォーズを創るアイデアに繋がった)
- やがて、救世主の誕生によりこれまでの対立は間違っていたと悟る存在が出てきて、このカルマを清算するための新たな場所について、創造の礎たちに助言を求めた  
そして地球が次なる統合のための舞台となった

文献:<https://youtu.be/NZAlc-YC4PA>

- 一方、琴座の文明の頃から始まった文明間の争いを好まなかった存在たちは、初期の頃からすぐ争いを避けるために新天地に逃れていった  
まず地球という星を見つけ、そこに入植していった  
すでに地球には霊長類が存在していた  
自分の中に霊長類の DNA を取り入れることで地球に順応していった

- だが、琴座からまた違う一団が地球にやってきたことで、争いの過去を思い出した存在たちは、争いを避けるために地球から逃げていった
- 再び争いの無い新天地を求め探した結果、プレアデスを見つけた
- 平和と調和、愛の文明を築いていこうとした
- だが、あまりにもネガティブを拒絶しすぎた結果、文明の発展が著しく停滞していった(無気力)
- この停滞に危機感を感じた存在たちの中から、オリオン戦争に参加する存在が現れはじめた  
(入るのは簡単だけど、一度入るとそこから抜け出すのは大変)
- 参加したものの間違っていたと悟り、プレアデスに還っていった
- そしてこの先どうするか決めかねていたプレアデス人のところに、創造の礎たちがやってきて地球の創世の手伝いを依頼した  
(プレアデス人には、霊長類の DNA を取り入れることで地球に順応していった過去があったため)  
そしてプレアデス人の一部は地球の創世に関わっていくことになった
- プレアデス人は地球人と最も酷似した外見をしている

文献:<https://youtu.be/DPyZNSU6XEM>

- 一方、琴座の文明の頃から非物質的な状態を選択した存在たちの中には、後にアルクトウルス人になった存在もいた  
アルクトウルス人は、物質次元での成長を望んだ存在たちの援助をするを選択した
- アルクトウルスの領域には、時空のゲートウェイがあり、銀河系種族のどこの領域にもどこでもドアのように交流ができる  
ゆえに、地球への転生を選択した存在たちは、基本的にこのゲートウェイを通過してやってくる  
また、次の転生までの中間生の中に過ごす領域もこのゲートウェイにあり、そこではヒーリングが行われている

- ・臨死体験に見られる強い光や天使といった存在は、アルクトウルクスのエネルギーから来ている
- ・アルクトウルクス人は精神的なヒーリングを得意とし、ポジティブシリウス人は肉体的なヒーリングを得意としている
- ・アルクトウルクスは、地球のみならず様々な銀河系種族に奉仕している
- ・アルクトウルクスの波動は、直感やインスピレーション、クリエイティブに長けている
- ・レムリア文明は、アルクトウルクス人との繋がりの中で生まれたが、やがて地球の波動が下がることでアルクトウルクス人との交流ができなくなっていった

文献:<https://youtu.be/Rq3bERIsGbY>

- ・地球人類の創世に関わったのは、創造の礎たち、琴座系(プレアデス人)、シリウス系の存在たちで行われた
- ・争いを好まない琴座系の存在たち(プレアデス人)は、初めから善悪の知識や自由選択を与えない計画をした
- ・初めから善悪や自由選択を与えないのは種の進化にとって良くないと考えたシリウス系の人たちは、善悪の知識や自由選択を与えることにした
- ・創造の礎たちは、シリウス人のオリオン戦争によるカルマを清算する目的を知っていたため、シリウス人のこの行動を見過ごすことにした
- ・シリウス人のこの行動に対抗すべく、琴座系の存在たちは、地球人の「宇宙種族の自分たちの起源や記憶」(生命の樹の実)を封印することで、地球人が宇宙とコンタクトを取る術を断たせた
- ・ネガティブシリウス人は、地球人の眠りの支配的構造の創造に関わっていった
- ・ポジティブシリウス人は、地球人の DNA に密かに目醒めのスイッチを組み込むことで、

地球人がアセンションした時に生命の樹の実の封印が解かれ、宇宙種族であることを思い出すようにした

・このように、地球人類の創造には、様々な宇宙種族の思惑が複雑に絡み合う形で行われていった

文献:<https://youtu.be/vpJEGZWup1U>

・一方、ゼータ・レチクル人は、壊滅したエイペックス文明の地下に逃れた生き残りの人たち

・文明の壊滅を反省したゼータ・レチクル人は、感情の抑制に向かった結果、衰退してしまう

・種の絶滅を恐れたゼータ・レチクル人は、創造の礎たちに助言を求めた

・創造の礎たちは、全ての宇宙種族の遺伝子が残っている地球を勧めた

・地球人の遺伝子が欲しいゼータ・レチクル人は、地球人の拉致を積極的に行っていた(一時的に拉致して、元の場所に戻す)

地球人とゼータ・レチクル人の混合種を創ることで新しい人種を創ろうという計画もあった

文献:<https://youtu.be/OSd1pwrJdjU>

・遅かれ早かれ全ての存在がアセンションするように設定されている

・知性の統合は、右脳と左脳の統合

・感情の統合は、自分の中のシャドウを否定せず受け入れること

・霊的統合は、自分の中の靈性に触れること

・肉体の統合は、我々は銀河系宇宙種族の一部であるということに目醒めること  
本当はプレアデス人、シリウス人と分けることもなく、「大いなるすべて」の一部である

文献:<https://youtu.be/tYEklS7DwGE>

～GameLite チャンネルより～

- ・ゼータ・レチクル人は、個性が弱く集合意識で活動している自分たちの DNA を地球人に組み込むことで、調和を導くような人間を創った
- ・これまでとは異質な人間を創る実験だったため、ほかの場所と隔離した場所、海に囲まれた日本列島で実験観察と創造が行われた
- ・広島県の宮島には、宇宙人の都市があり、実験が創造が行われていた  
プレアデスと地球を繋ぐゲートもあった

文献:<https://youtu.be/UAp6MdgfsdM>

～ゼータ・レチクル人について追加情報～

- ・ゼータ・レチクル星人は、自分たちが感情を無くしたのは失敗だったと思っている  
だが、地球人から見たら一体感と調和を取れているように見える  
地球人は、ゼータ・レチクル星人が持っていない個性の豊かさを持っている  
それぞれが対極的であり、それぞれが持っていない長所を持っている  
ゼータ・レチクル星人は、地球人との混合種族を生み出すことで両方の短所を埋め合わせ長所を活用できると考えている

文献:<https://youtu.be/XmDZ6DhTbc0>

～リサ・ロイヤルさんのワークショップ音声はこちら～

プリズム・オブ・リラ 1993/8/7 リサ・ロイヤル

<https://youtu.be/zkDRB2AaNjY>

<https://youtu.be/XmDZ6DhTbc0>

<https://youtu.be/vrEqMV0U36Q>

・(チャネリング先の)ジャーメインは、集合意識体  
たくさんの魂が一体となって融合している存在  
男性でも女性でも無い

・サーシャは、肉体を持っているプレアデス星人の女性  
リサ・ロイヤル自身の未来世  
UFO との遭遇経験において、UFO に乗ってる存在はサーシャであった

・ほとんどの人が、未来世としてプレアデス星人として生きている  
そしてその未来世のプレアデス星人が、皆さん自身や地球が進化するのを手助けして  
いる

・各波動レベルの現実は、全てが同時にそれぞれの波動レベルに存在している  
皆さんの中にもそれぞれ全ての波動レベルが存在する  
だが我々は今、第三波動レベルに自分の意識の焦点をあてることを選択している

・皆さん自身が輪廻転生を通じて琴座、シリウス、その他様々な惑星文明に転生してき  
た  
ゆえに、宇宙種族の歴史に出てくる存在は皆さん自身であった  
物理的な人間を創り出したのも皆さん自身であった  
皆さん自身が人間の創造の実験の手助けをしていた

・地球人と関係が深い宇宙種族は基本的に人間型種族  
ほかにも、宇宙には人間型とは全然違った形態の種族もいる  
宇宙人の介入を受けずに自然に進化の道を辿った惑星には一民族しかいない  
地球に様々な人種がいるのは、それだけたくさんの宇宙人の影響があるということであ  
る

・皆さんの中にはそれぞれグレートスピリットが宿っている  
皆さん一人一人が経験することによって、グレートスピリットがその経験を得ている  
皆さんは単に俳優であるだけでなく、脚本家でもあり演出家でもある  
ゆえに、外部の存在が何かをしたというわけではない  
皆さんがこの芝居を創り出している  
皆さん自身がこの長い宇宙の歴史の旅を望んだ

・一つ一つの輪廻転生してきた人生は、宇宙的観点で見れば同時進行的に起こっている

ハイヤーセルフはこれらの様々な人生経験を全て結び付けている

私たちがハイヤーセルフと結びつくと、これまで経験してきた全ての人生にアクセスすることができる

ハイヤーセルフはこれら全ての人生経験を収集する役割がある

・ただワクワクした気持ちに従うこと

そして皆さんにとって自然な道を歩いていくこと

・光と闇は両者が一体となって存在している

否定することはできない

抑圧や逃避は葛藤の温存に繋がり、やがて臨界点まで到達する

自分の暗黒面と友達になること

光の闇の側面をいったん受け入れることが、次の波動レベルへの移行に繋がる

善と悪の戦いは皆さんの心の中で起こっていること

善と悪の統合が次の波動レベルへの移行に繋がる

皆さん自身を救うことができるのは、皆さん自身である

## 【オーストラリアの先住民アボリジニについて】

- ・遙か昔に描かれた洞窟壁画に、宇宙人と思わしき壁画が残されている
- ・空から降りてきた神々に関する数多くの神話がある
- ・文字文化を持たないため、歴史や神聖な知識は絵画や音楽、口伝えによって伝えられてきた
- ・北西部のキンバリー地域の洞窟壁画には、空から降りてきた英雄ウォンジナが描かれている  
ウォンジナは偉大な英雄であり天空神である  
大地を操って川や山を創り、仲間同士で戦った後去っていった  
ウォンジナの見た目はグレイ宇宙人にそっくり  
空飛ぶ乗り物で他の星と行き来していた伝説がある  
天から地に降りてきて、人類にあらゆる知恵を授けた
- ・バイアミは、天の川から降りてきた創造神  
両手にはそれぞれ月と明けの明星を持っていて、地球を象徴している  
宇宙から、聖なる山に降りてきた  
そして、山頂から天に戻っていった
- ・188個の巨石からなるアボリジニの遺跡

文献：[https://youtu.be/T-0WJzC7\\_aY](https://youtu.be/T-0WJzC7_aY)

- ・巨石群は、天体観測に関係している
- ・虹蛇は原初の頃に空から降りてきて、その腹から全てを生み出した創造を象徴する聖なるシンボル  
生命はプレアデス星団から宇宙を通過してやってきたとされる
- ・ドリーミングという儀式  
始めに偉大な精霊がいた

彼らは天の世界から降りてきた  
儀式の際、長老は歌うだけでなく催眠効果のある楽器も使う  
それによりドリームタイムに繋がり、目に見えない世界にいる祖先、つまり天の神々と会話を  
する  
ドリームタイムには、蓄積されてきた知恵やイメージや物語が含まれている  
長老たちが意識を変容させ、あらゆる出来事が記録されている場所に近づくことがドリー  
ミングという儀式  
ドリームタイムは、時を超越していて、決して消えないものである

- ・ドリームタイムという概念は、古代インドの概念アカシックレコードと似ている
- ・ホログラフィック宇宙論は、ドリームタイムという概念、アカシックレコードという概念とよ  
く似ている

文献:<https://youtu.be/NBMxfcY37bI>

- ・男性も女性も多段階のイニシエーションを備え、ドリーミングと呼ばれる霊的次元に深  
く同調するようにその成長を目指す
- ・トーテム先祖は、地下から現れ、一部は天から現れ、長い旅を経て地形を創り、聖地  
を創り、名づけを行い、法と儀礼をもたらした  
そして、人間と動物を生み、霊的子供を生んだ
- ・トーテム先祖が、地上で誕生した地、帰還した地は、祭儀の場所となった
- ・虹蛇は、生命を与える水の化身であり、創造と豊穡、靈魂の根源的存在  
両性具有的存在  
水晶との対比においては女性原理  
大地と宇宙のエネルギーであり、大地と天空を結ぶ  
ドリームタイムにおいて、洪水をもたらした  
人間のヘソの奥に虹蛇が眠っており、額からその力を放つと強力な眼と呼ばれるもの  
になる  
この肉体内の虹蛇は、インドのクンダリーニーと同じである

- 虹が生じる水晶(天空にある水晶の玉座)が創造の起源であり、そこから生まれたのが万物の母である虹蛇である

天空の父:透明な水晶

万物の母:虹蛇

- ドリームタイムは、地上世界を創っている基盤となる世界であり、その原型一種のアイデア、元型のような存在

- 狩猟民から牧畜民に変化すると、霊視の力を失う

- 多数のイニシエーションを経て、高位の長老になる

疑死を体験するイニシエーションを体験するごとに、死の世界、つまりドリームタイムの世界に自己の意識を深めていく

- 高位イニシエーションは、天空、地上、地下の3つの領域を自由に往来できることを目指す

死に臨んだ長老は、青空を眺め、そこに見える光の粒子と一体化する瞑想を行う

文献:<https://morfos.blog.ss-blog.jp/2020-11-17>

【70歳からの「幸せな過ごし方」【仏教の教え】の内容に感銘を受けたのでシェア】  
YouTube チャンネル「仏教に学ぶ幸福論 by 菊谷隆太」より

・手に入れたいものを獲得する… という幸せだけでは太刀打ちできなくなってくる

若い頃は年齢と共にだんだん経験を積んでできるようになることが増えていく  
やがて高齢者になると、だんだんできないようになることが増えていく

・幸せへのアプローチを切り替える必要が出てくる

・「今そこにある幸せに気づく」という幸せ

今まで当たり前だと思っていたことが決して当たり前ではなかった、ということに気づくと、人間は、この状態を幸せなんだと感じるようになる

・「次世代に残す」という幸せ

気づいたこと知ったことは、自分の格付けのためにあるのではなく、  
人に手渡すためにある

知識や経験を、誰かの助けになるために

誰かを幸せにすることは、自分もまた幸せを感じる

自利利他

今まで自分を支えてくれた方へのご恩返し

詳細はこちら

70歳からの「幸せな過ごし方」【仏教の教え】

<https://youtu.be/G2zKP7k5qOc>

【もののけ姫、千と千尋の神隠し、君の名は。、エヴァンゲリオンに隠された世界の真理】

TOLAND VLOG チャンネルより

～もののけ姫～

あらすじ

時代は室町時代後期

物語の主人公アシタカは、東北の奥地にある蝦夷村で村の外部からやってきた化け物と戦うところから物語が始まる

主人公はもののけ姫ではなく、美青年アシタカ

そんなアシタカが最初に戦った化け物は、崇り神と言い、山の神様だったイノシシが人間に銃で撃たれて苦しんだ結果の成れの果てであり、崇り神と戦ったアシタカは腕にその呪いを受けてしまう

その呪詛はやがて体を蝕み命を落とすだろうということで、アシタカは自分の住む村を出て、その崇り神を生み出したとされる西の地に行き、何が起きているのかを確かめる旅に出た

アシタカは夜中にひっそりと1人で出ていった

実質追放されたような感じである

この村にはもう帰れない

そして辿り着いた先が、シシ神の森という動物が太古からの姿を保つ神聖な森であった

この森では、人の言葉を話す犬神や、イノシシの神様、そして生と死を司る神シシ神がいた

もののけ姫と呼ばれる女性サンは、その森で犬神の娘として育てられている

犬神とイノシシの神様は、その領域を犯そうとしている人間たちと争っていた

その人間の代表はエボシと呼ばれる女の人で、この彼女は森を切り開き、たたら場と呼ばれる製鉄所を運営していた

製鉄をするには、5トンの鉄を作るには山を1つ伐採すると言われるくらい、大量の木材を使う

森に住む犬神やイノシシ神たちからすると、自分たちの住処を荒らす存在である

そのため、人と犬神・イノシシ神たちとの争いが続いていた

そこに朝廷からの秘密の任務をもって密かに遣わされる死者として、ジコ坊がエボシの元にやってくる

朝廷は不老不死のために、シシ神の首を献上せよという指令をジコ坊に出していた

シシ神の森でたたら場を運営していたエボシと組んで、協力してシシ神討伐の実行をした

主人公のアシタカは、そんな風に争いをする人間と森の神様たちを見て、なんとか共に生きることは出来ないのかと苦悩し、犠牲を払いながらも共生の道を見つけるという物語

・縄文的な土面は、アシタカの村に残っている

アシタカの村は縄文文化が残っている

ラスボスのデイダラボッチは体中に縄文の紋様が広がっている

・犬神のモロが寝床にしている場所は、巨石によって作られた磐座

これは、大阪にある磐船神社をモデルにしている

つまり、モロが今寝床にしている場所は、かつて人々が山の神を信仰して作った磐座  
人々が信仰を忘れた今もなお、そこで生活している

元々、信仰心は自然を敬っていた人間と犬神というのは、すごく密接であり、調和の取れた関係であった

今でも犬神はそこを手放していない

・もののけ姫の設定では、人々が信仰の心を無くしていくことで、神の力が薄れていき、

犬やイノシシの体は小さくなっていって、知能も下がってしまうということが、乙事主の言葉からわかっている

人間と自然の神は繋がっていて、かつて調和の取れた存在でバランスを取っていた

・そんな知能を無くしつつあるイノシシを引き連れている乙事主は、鎮西から来た

鎮西とは、鎌倉幕府が九州地方を統治するために置いた機関があった場所を言う

このイノシシは九州から海を渡り、本州にやってきたということになる

つまり、東からも西からも来ているこのシシ神の森の場所の候補は、2つ考えられる

1つ目の候補地は、長野県諏訪郡 龍神信仰が残るであり、作中に登場するキャラクターの名前と同じ地名が存在する

エボシ: 烏帽子

乙事主: おっこと

ジコ坊: ハナイグチというキノコは長野県の方言でジコ坊と呼ばれている

富士見町のすぐ上には、諏訪大社がある

諏訪大社は、タケミナカタを御祭神としている タケミナカタは出雲族であり、諏訪大社は出雲族を祀る出雲系の神社

出雲族というのは、砂鉄から鉄器を作る製鉄技術を持っていた一族とも言われている  
タケミナカタは出雲の国譲りの際に唯一反対して、タケミカヅチと戦って敗れた後、諏訪の地にまで追い込まれた

もともとその地にいた土着の洩矢氏も、製鉄の技術を持った一族であった  
つまり、諏訪の地は製鉄が盛んだった

諏訪の周辺には、諏訪七石と呼ばれる巨石が残っており、磐座信仰の名残がある

2つ目の候補地は、島根県出雲市周辺

出雲のルーツを辿っていくと、縄文人に繋がる

現在、生産施設が残っているたたら場は、島根県雲南市吉田町にある菅谷たたらのみ

この地域は砂鉄が多く産出されることから、古くからたたらで有名であった

この場所は出雲大社のすぐ下にある森

諏訪同様に、製鉄技術を持った出雲族が治めていた地

この周辺にも、磐座信仰の名残がある神社がたくさんある

雲南市の石神社、双子岩、須佐之男命磐座

どちらも出雲族とゆかりのある地域が候補に上がった

当時のたたら場が果たしていた役割というのは、鉄を作るだけでなく、出雲族が治める  
エリアは大和族が入れない治外法権の場所であり、罪人や大和朝廷から迫害された  
人たちは出雲の地へ逃げ込んでいた

そういった流れ者の働き場としてもたたら場は機能していた

作中でも、エボシは、身売りされた女性や病気になって人扱いされなくなった病人たち  
を招き入れてたたら場で働いてもらっていた

作中では、元々出雲と敵対していた大和朝廷が、自然の象徴であるシシ神様の首を  
狙っている

作中で描かれる大和族は、自然信仰を忘れてしまっている

対するアシタカ、縄文・蝦夷は共生を言い続けており、共に生きることは出来ないのか  
と問い続けている

エボシも出雲族をモデルにされているけど、自分たちが生きるために自然を壊そうとして  
いる

東に追いやられていた蝦夷たちは、なんとか自然と共に生きようとしていた

・アシタカは腕に呪詛を受けたあと、村の長老会に呼ばれて、巫女のおばあちゃんから  
村を出ていくように言われる

この時、みんなが集まる社の右奥に巨石がある  
この巨石を御祭神としてこの社が建てられた  
つまり、蝦夷の村は、自然を崇拝する縄文的なアニミズムを継承する文化が完全に残っている  
さらに手前にある壺は、縄文土器の紋様が刻まれている  
アシタカたちが住んでいるのは、縄文から続く文化を持った村

アシタカが受けた呪詛のアザも、縄文の模様が浮かび上がってきている  
ラスボスのデイドラボッチは完全に縄文土器である  
デイドラボッチは神の力であり、縄文の力であった  
呪詛のアザは聖痕でもある  
崇り神は遙か西の国からやってきており、腹には鉛玉が刺さっているから、これは人間によって与えられた傷である  
このまま呪いで死ぬくらいだったら、問題の原因を西に行って実際に見てきなさいと伝えられてアシタカは出ていった

その時、長老会の中の1人のおじいさんが、「大和との戦いに敗れこの地に潜んでから五百有余年」と発言している  
つまり、この集落の人たちは、500年余り前に大和との戦いに敗れて、東北の地に生き延びた人たちの末裔であった

・五百有余年前に大和との戦いで敗れたという話は、時代的には700年代中盤から800年頃にかけての戦いであった  
大化の改新より前の時代は、福井の敦賀よりも東側は全部蝦夷の時代があった  
だが、徐々に蝦夷の領域が狭まって、東に追いやられていった  
大化の改新後に、どんどん大和政権の支配領域を広げていった  
徐々に蝦夷を討伐して取り込んでいって、大和政権は領土を広げていった  
その上で蝦夷勢力の力を奪うために、重い税制度を強いたりした  
そこで蝦夷たちは反乱を起こした 大化の改新後の720年頃であった  
作中の500年前はこのあたりに一致する  
この頃の反乱によって起こった争いで、住む場所を失った蝦夷たちが北上して逃げ延びたのがアシタカたちの先祖であったと考えられる  
その地が青森県あたりであった

青森県にいまだに残る根強い巨石信仰  
津軽地方には、巨石を御神体としている神社や社が数多く存在している

青森市の山中にある石神様、青森県平川市にある神社の大石様、大石様と古代祭祀場跡

アシタカがいた蝦夷の村は、陸奥国の奥地、青森県の津軽地方であったと考えられる

・東日流外三郡誌や、出雲口伝によると、出雲族の王様だったナガスネヒコは当時大和の地を支配していた  
ところがそこに天孫族を率いるイワレビコがやってきて戦争になり、ナガスネヒコは敗北して大和の地を譲り、東北へ逃げ延び、その地が津軽であったとされている

そしてその後、大和の地を治めた神武天皇は大和族として後の時代に名を残していく  
この戦いに敗北したナガスネヒコは弓の名射手であった

作中のアシタカも弓の名射手である

ナガスネヒコ:長い脛

アシタカヒコ:足が高い

つまり、アシタカはナガスネヒコの子孫で出雲の王族であった

もののけ姫は、大和族と出雲族の対立を描いている

自然信仰を忘れた大和族と、今も自然を信仰し共生の道を探す古代出雲族

古代出雲族は龍神信仰であった

千と千尋の神隠しにおける、ハクの正体は白龍であった

文献:<https://youtu.be/72dNe34wny0>

～千と千尋の神隠し～

あらすじ

異世界に迷い込んだ10歳の少女千尋が、名前を奪われて、湯婆婆の経営するお風呂屋さんで働くお話

お風呂屋さんのお客さんが八百万の神

いろいろなハプニングが起こる中、千尋を終始助けてくれるのが美少年ハク

ハクは湯婆婆に完全に名前を奪われていて、言いなりになっていた

ハクの正体は、巨大な白龍

ハクを救うために千尋は旅に出て、物語の後半で千尋はハクの正体を思い出す

昔よく遊んでいた近所の琥珀川そのものであり、溺れた千尋を助けてくれた川の神だった

千尋がハクの存在を思い出したことで、ハク自身も自分の名前がニギハヤミコハクヌシだと思出す

神としての力を取り戻したハクは、千尋に「元の世界へ戻るから」と約束し、千尋は元の世界へ、ハクは湯婆婆に話をつけに行った

・潰れたテーマパークにある中華料理屋の料理を食べた千尋の両親は豚になった ⇒ 日本神話のエッセンス

死んだイザナミを追いかけて黄泉の国に行ったイザナギ

イザナミはすでに黄泉の国の食べ物を食べてしまったから、もう戻れない

⇒ 神話のルール: 異世界の物を食べるとその世界の体になってしまう

つまり、千尋の両親は、異世界の食べ物を食べたから、豚になった

・神話のルール: 名前を奪うことで相手を支配する

神話では名前を言うと相手に支配される

湯婆婆のもとで働くことになった千尋は、契約を交わす

その際、自分の漢字を間違えて書いている

だから真の名前を奪われずに湯婆婆に支配されなかった

ハクは、完全に名前を奪われていた

ハクの真の名前: ニギハヤミコハクヌシ

⇒ 日本神話のニギハヤヒがモデル

ニギハヤヒ

後の神武天皇になるイワレビコよりも先に地上に降り立って大和を治めていた

イワレビコが大和を訪れた際に、大和の地を明け渡し、イワレビコは神武天皇として即位した

(偽書とされている) 先代旧事本紀によると、ニギハヤヒはイワレビコ

よりも先に地上を治めてくれと派遣されたアマテラスのお孫さん

地上に降り立ってすぐに亡くなり、その息子ウマシマジが治めていた

ウマシマジが生まれる前にニギハヤヒは亡くなったため、誰か別の人の地上に降ろそう  
ということで派遣されたのがニニギノミコト  
ニニギノミコトの子孫がイワレビコとなった

つまり、神武天皇より前の王様がウマシマジであり、その父ニギハヤヒが初代王様だっ  
たということになる

つまり、ハクが真の支配者であり、湯婆婆を凌ぐ力を持っていた  
それを危惧した湯婆婆に名前を奪われていたということになる

・もののけ姫に出てくるアシタカは、蝦夷と呼ばれる東に住む人たち  
冒頭のシーンで、今は東に住んでいるけど昔は西の方にいた けど、戦いに敗れて東  
の地に逃げてきた というシーンがある

日本神話において、ニギハヤヒがイワレビコと対峙した際、  
ニギハヤヒは、武将のナガスネヒコが言うことを聞かなかったから殺しときました という  
シーンがある

だが、誰もナガスネヒコが死ぬ姿を見ていない  
もしその時、実際には殺さなくて密かに東の地に逃がしてたとすれば、  
東の地に落ち延びて、そこで力をつけ、その末裔がアシタカだとすれば、  
ナガスネヒコの長い脛と、アシタカの足が高い  
アシタカは弓矢の名手であった  
ナガスネヒコも弓矢の名手とされている

文献:<https://youtu.be/AlscgzDmmww>

・ニギハヤヒと大物主は同一視され、その姿は蛇であったとも言われている  
つまり、ニギハヤヒは蛇の化身であった  
そんなニギハヤヒは歴史からその功績を消されている

千と千尋の神隠しのニギハヤミコハクヌシは、真の名前を奪われた神、龍蛇の化身

・コハクヌシのコハクは、宝石の琥珀  
琥珀とは、太古に繁栄した樹木の樹脂が地中に埋もれて化石化し、宝石として扱われ  
るようになったもの  
この輝きから、太陽の石、太陽の力を封じ込めた石とされている

琥珀の石言葉:繁栄、愛、帝王

太陽…帝王… つまり天照大神

封印されし帝王、太陽神ニギハヤヒと完全に一致する

・瀬織津姫

瀬織津姫は、記紀には名前も登場しない

祝詞の中でのみ登場する

元々は日本中で祀られていたが、名前を消されたり、別の神様が祀られたり、存在そのものを抹消された女神

川や滝を司る水神

白蛇や白龍の化身

千と千尋の神隠しのハクの正体も、川の神であり白龍の化身

ニギハヤミコハクヌシには、ニギハヤヒと瀬織津姫の神が込められている

ニギハヤヒと瀬織津姫の共通点

歴史から名前を消された重要な神様

龍蛇の化身

ニギハヤヒの子孫が宮司を務める籠神社には、ニギハヤヒと市杵島姫が夫婦として描かれている絵馬がある

日本神話にはこの事実は一切書かれていない

ニギハヤヒと市杵島姫の結婚自体が歴史的に隠されている

この市杵島姫と同一神だと言われているのが、瀬織津姫

古史古伝であるホツマツタエには、アマテルカミ(男性神)の正妻は瀬織津姫であると記されている

つまり、初代統一王であるニギハヤヒと瀬織津姫は結婚しており、2柱で日本を統治していた可能性がでてくる

その2柱の存在が隠されているのが、千と千尋の神隠しに登場するハク

ハクが中性的に描かれているのは、男神と女神、陰陽が統合した存在だからなのかもしれない

最後にハクが名前を取り戻し、自分が自然の神だと気付くのは、人間も自然の神の存在を思い出し、自然を取り戻していこうというメッセージ

文献:<https://youtu.be/AJbk5BwWCaU>

～君の名は。～

あらすじ

主人公は2人

都会の生活に憧れを抱く女子高生、宮水三葉

岐阜県の飛騨に住み、妹の四葉と共に宮水神社の巫女を務める

東京の高校生、立花瀧

2人は突然心が入れ替わり、ドタバタしていくドタバタコメディ的なスタート

ある日、三葉との入れ替わりがなくなったことに気付いた立花瀧は、三葉の体の時の記憶をもとに描いた景色を頼りに岐阜県の飛騨にたどり着く

そこで三葉が住んでいた糸守町は、3年前ティアマト彗星の破片が落下し、町が消滅していたことを知る

2人の入れ替わりには3年のズレがあり、三葉は3年前に亡くなっていた

愕然とする立花瀧は、三葉が巫女を務めていた宮水神社の御神体の祠に向かう

そこで再び体が入れ替わった

そこで何とか頑張り、3年前の三葉と町の人たちは救われた

でも、2人の記憶は無くなってしまう

5年後に偶然に再会した

記憶は無くなっているのに、2人は立ち止まって振り返り、「君の名は？」

・瀬織津姫は、日本書紀・古事記には一切登場しない謎の女神

その名前は、人々の罪や穢れを祓う「水月晦大祓」という祝詞の中でのみ確認できる神様

人々の罪を大海原に流す祓戸大神であり、滝や川を司る水神

白龍の化身とも言われ、かつては伊勢神宮の荒御霊として祀られていた

古代日本最初の統一王ニギハヤヒの皇后だったとも言われている

存在が消され、多くの秘密が隠された女神

現代のスピリチュアル界で絶大な人気

・宮水三葉の名前の由来

直接的には、ミヅハノメ 水の女神に由来

川や滝に関連する水神

龍神と言われるタカオカミとセットで祀られることも多い

瀬織津姫と同一視される神様の代表格

・立花瀧の瀧

滝＝瀧

滝は古来から、龍が宿る 龍そのものであると考えられていた

・宮水三葉が宮水神社の神楽殿で舞を踊るシーン

頭につけている飾りにも龍が、手に持っている杖にも龍があしらわれている

このことから、宮水神社は龍にゆかりのある神社であるということがわかる

宮水神社の御神体は、神社の中にはなく、糸守町の山の上にある奥宮に御神体がある

山そのものが御神体

宮水神社は岐阜県の飛騨にある

岐阜県の飛騨は、正統竹内文書においては神々が最初に降り立った場所とされている

飛騨の位山に降り立った

位山にはたくさんの巨石があり、巨石から木が生えている

作中でも、御神体がある頂上には巨石があり、巨石には木が生えている

その作中のビジュアルが、位山の頂上にある天岩戸にそっくり

位山も、位山そのものが御神体であり、近くにある飛騨一宮水無神社の奥宮である神社と奥宮の構造が作中と一緒

飛騨一宮水無神社の「宮水」

・飛騨一宮水無神社に祀られている神様

主祭神:大年(おおとし)ニギハヤヒと高照姫との御子神と言われる御歳大神、大国

主、アメノホアカリ(ニギハヤヒ)、高照姫、豊受大神

御歳大神は別名、水無神

川の水源を司る神

・宮水神社の外観のモデル

飛騨にある日枝神社

日枝神社の御祭神:オオヤマクイ

大年・ニギハヤヒと天知迦流美豆比売という謎の女神との御子神

天知迦流美豆比売

天知=天を知る 迦=出会う 流美豆比売=美しく流れる

美しく流れる水の姫

つまり、瀬織津姫

御歳大神の両親は、ニギハヤヒと大国主の娘の高照姫

ニギハヤヒと結婚する前は、地上や海を照らす下照姫という名前

ニギハヤヒと結婚後に、天から照らす高照姫に

ニギハヤヒの皇后になった

つまり、高照姫と瀬織津姫は同一神

つまり、市杵島姫、天知迦流美豆比売、高照姫、瀬織津姫は同一神

瀬織津姫という名前自体は、祓戸大神という役職名であった

・糸守町に降り注ぐティアマト彗星

ティアマトとは、メソポタミア神話における女神

淡水の神アプスーと交わり様々な神を産んだ原初の神

後世において、ティアマトは巨大な龍の姿をしていたとされている

作中において、1200年周期で糸守町に落下している

作中のセリフから、三葉の母・祖母も入れ替わりを経験している

入れ替わり能力は、巫女である宮水家に伝わるもの

1200年周期の大災害から守るために存在

この事実に主人公の立花瀧は気づき、宮水神社の御神体に行き、再び三葉と入れ替わり、滅びの過去を変えた

・1200年周期は、0をひとつ増やすと12000年

12000年前といえば、世界中の神話で語られる大洪水が起こったと言われる時代

地球は歳差運動で回転しており、25800年かけて一周している

25800年の半分の期間が12900年

歳差運動によって春分点に位置する星座も時代と共に移り変わる

25800年を12星座で割ると、2000年周期で春分点に位置する星座が入れ替わる

世界中に存在する巨石遺跡は、春分点の方向を示し、春分の日や秋分の日にかしらの仕掛けが起こるものが多い

マヤ文明チチェンイツァ遺跡のククルカン、エジプトのピラミッド

飛騨にある金山巨石群、高知県足摺岬

モアイやスフィンクスも

古代の人々は、後世に残る巨大遺跡で何かを伝えようとしていた

2000年前に春分点に位置していた星座は魚座

この時代にイエス・キリストは生まれ、正統竹内文書によると神武天皇も生まれている

魚座の時代から2000年経った現代は、水瓶座への移行期

今から12000年前は、歳差運動の半分である獅子座の時代

この獅子座の時代に文明は一度滅んでいるのではないか

現代の水瓶座の時代こそが、12000年ぶりの大転換期であると言われている

スフィンクスは下半身が獅子で上半身が人間

これは、獅子座から水瓶座への12000年周期を伝える建造物

水瓶座のマークは、女の人が水瓶をひっくり返している

つまり、大洪水

ネイティブアメリカンのホピ族は、現代の水瓶座の時代こそが、人類が物質主義となり滅びるか、精神や自然を大切にす調和の道を進むかの分岐点だと伝えている

君の名はの作品も、12000年周期で起こる人類への災害をティアマト彗星で表現している

名前を取り戻すというテーマは、神様の存在を思い出すということでもある

今の人間は、神様の名前だけを自然から切り出して、概念を崇拝しているにすぎない

例えば、山の神様の名前を山と切り離して、神様の名前は崇拝する一方、平気で山は切り崩している

神の名を思い出すとは、神の名を切り取って取り出すのではなく、本来の自然に神の名を返す

つまり、自然そのものを敬うというスタンスに切り替えるということである

人類の信仰も、もともとは固有の神を崇める概念はなく、自然そのものを崇拝するアニミズムであった

日本の八百万という考えも、アニミズム信仰から来ている

千と千尋の神隠しも、君の名はも、神々が名前を取り戻す物語

自然そのものを取り戻すというメッセージがある

2001年公開の千と千尋の神隠しは、男性神のニギハヤヒの要素が強め

2016年公開の君の名は。は、女性神の瀬織津姫の要素が強め

このゆるやかな移行は、時代の移り変わりを表しているような気がする

文献:<https://youtu.be/Frul7EBPsEk>

～エヴァンゲリオン～

目醒めのヒントとなるのは、エヴァンゲリオンに描かれているようなそんな気がしました。その全貌は、TOLAND VLOG チャンネルの『【究極考察】エヴァンゲリオン編』の動画シリーズを全てご覧ください。

[https://youtube.com/playlist?list=PLrd0S07H\\_Wx6bzUclu1LKm-Zpv9BfRzw1](https://youtube.com/playlist?list=PLrd0S07H_Wx6bzUclu1LKm-Zpv9BfRzw1)

当記事には私が受け取ったキーワードのみを載せたいと思います。

考察動画シリーズ全体を通しての解説や、登場人物の生々しい心の葛藤の中にこそ、真髄は隠されています。

・旧約聖書の冒頭において神様は人間を創る

・最初男性:アダム ⇒ 肋骨から女性エヴァ

最初女性:リス⇒悪魔と交わり、悪魔の子リリンを生んだ

・エヴァンゲリオンでは、人類のことをリリンと言う

- ・知恵の実を食べると賢くなり、生命の実を食べると寿命が無くなる  
2つを食べると神に等しき存在になる
- ・エヴァンゲリオンの世界において、人類は地球外生命体の干渉によって誕生した
- ・第一始祖民族は、自分たちの生命の種を銀河中にばらまき始めた  
宇宙船の役割になるのが月
- ・白い月のリーダー:アダム ⇒ 生命の実を選んで旅立つ  
⇒ 地球に来て、使徒たちを生んだ
- ・生命の種は、1惑星につき1つ  
イレギュラーで地球に2つ目が来る ⇒ 黒い月のリーダー:リリス  
ファーストインパクト 大洪水  
ファーストインパクトにより使徒たちは活動を停止
- ・リリスから、LCL という生命の源が流れ込み、地球にいろいろな生命体が生まれた  
⇒ そして人類が生まれた(リリン)
- ・使徒 VS 人類 の生き残りの争いが始まった
- ・人類によるゼーレという組織
- ・白い月に眠るアダムを発見  
ロンギヌスの槍でアダムを封印させようとした ⇒ セカンドインパクトの大爆発が起きた  
アダムの魂は回収され、渚カヲルに入れた
- ・リリスをロンギヌスの槍で封印させ、魂を抜き取った  
リリスの魂は、綾波レイに入れた
- ・人類補完計画  
使徒をまず倒し、人類の意志でサードインパクトを起こすことで、人と人の境界線が  
無くなり溶け、LCL に戻る  
心の壁、AT フィールドがあるから疑ったり、争ったりする  
人類がわかり合えるようになる方法は、肉体という壁を取っ払ってひとつに溶け合い、  
新しいひとつの生命体として生まれ変わることである

という計画

・使徒がサードインパクトを起こしたら、体は溶けるが、魂が行き場を失うため、新しいひとつの生命体に生まれ変わることができない

・サードインパクトのトリガーは碓シンジの意志に委ねられた  
旧エヴァ:消えて無くなりたいたい ⇒ サードインパクト発動

碓シンジの心の葛藤

自分は自分でありたい

たとえ傷ついても他人と一緒にいる世界のほうが良い

⇒ 人類補完計画がリセット

自分を受け入れるんだと思い元の世界に戻ってきたが、結局また拒絶してしまう

・碓ゲンドウの独自路線の人類補完計画:自分自身が神になる  
(妻の碓ユイともう一度会いたい)

・新エヴァにおいても、人類補完計画は阻止されたが、今度は自分という存在を受けとめることができ、世界の真実に気付いた

・世界に絶望して、自分にも絶望して、人類補完計画のトリガーとなり発動していった  
そんな旧世界から、新世界では、周りを全部優しさと捉えられるようになり、捉え方が変化していった

・これまでずっと葛藤と絶望と拒絶を繰り返してきた  
でも、やっと自分という存在を受けとめることができ、受けとめてくれる存在がいるんだということが理解できた

・これまで嫌われるのが怖くて傷つくのが怖くて近づけなかったけど、でも今は知りたい  
真向から向き合う

・ヤマアラシのジレンマ

外界の世界を遮断して自分の世界に籠ってた 弱い自分を隠してた

今まで押し殺していた感情

真向から向き合った時、全てを悟った

そして自分の足で現実世界を進み出す

- ・メタ視点:現実とアニメの壁を取っ払った神の視点
- ・マイナス宇宙:現実と虚構の垣根を超えた記憶の世界
- ・終わりの無い心の円環の日々  
(※頭の中だけで作ると、その人の脳の中にある世界だけで終わってしまう)
- ・全てを知っている外側の存在によってこの円環は終了していく  
(※そしてその外側の存在と内側の円環の自分が統合されることで、この円環は終了する)
- ・自分の弱さから否定して遠ざける自分と、全てを肯定してただ幸せだけを願うもうひとりの理想の自分
- ・何度も繰り返される円環の世界に気付く  
(定められた円環の物語の中で、演じることを繰り返す)
- ・この世界は虚構であり、作品の中に閉じ込められているということに気付く  
(生命の書に名を連ねている)
- ・(※陰と陽の統合、そして)この繰り返される円環を断ち切って、前に進んだ時、この物語は終わる
- ・虚構の世界に気付き、現実世界に飛び出す

●オープニング映像に出てくる宗教的な意味

※こちらの2つのブログサイトより引用し、じっくり来たほうの説の一部を採用していきます

<https://evangelion.dancing-doll.com/episode/opening-theme.html>

<https://ameblo.jp/masaecox-x/entry-12674932309.html>

- ・暗い空間に青い中心点が現れ、青い光の円が広がる

⇒ 無限空間に無限光が凝集して点となり、そこからの流出により世界が始まる

・12枚の翼を持つ天使

⇒ 12枚の翼は墮天使ルシファーの特徴(残酷な天使)

リリスを表している可能性

・生命の樹

⇒ 旧約聖書の創世記にて、理想郷エデンの中央部に埋められた木

ユダヤ教カバラにおいて、セフィロトの樹と呼ばれる

神と人間界を結び、神が人間界へ、人間が神の元へ至るための樹

天から地上への神性の流出(下降)により世界が創られていることを表している

・揺らめく青い光

⇒ 人間の魂、自己、霊、神、心の奥で揺らめく輝き…

・新世紀エヴァンゲリオン:新たな福音という意味

・葛城ミサトの手のシルエット

⇒ 福音を示す手印

・生命の樹の概念図、セフィロトの樹のセフィロト体系

・12枚の光の羽を広げるエヴァンゲリオン初号機

⇒ 墮天使ルシファー

●本編の中の気になるキーワード

・5話

(使徒は)構成素材の違いはあっても、信号の配置と座標は人間の遺伝子と酷似している

・12話

科学による人の傲慢がセカンドインパクトを引き起こした

・16話

エヴァンゲリオンは、第一使徒アダムのコピー

・20話

エヴァンゲリオン初号機の中に取り込まれた碓シンジの心の世界の描写  
生きていこうと思えば、どこだって天国になる  
男だったらシンジ、女だったらレイと名付ける

・25話

人類補完計画における、心の世界の描写  
たくさんある事実その中の1つ あなたが望んだ結果  
現実とは、あなたの世界 時間と空間と他人と共にあるあなた自身の世界

・26話

人類補完計画における、心の世界の描写  
これも1つの世界 僕の中の可能性 今の僕が僕そのものではない いろいろな僕自身がありえる

「僕は僕が嫌いだ  
でも好きになれるかもしれない  
僕はここにいてもいいのかもしれない  
そうだ。僕は僕でしかない  
僕は僕だ。僕でいたい  
僕はここにいたい!  
僕はここにいてもいいんだ!!」

おめでとう おめでとう おめでとう おめでとう おめでとう

・Air

私たち人間も、アダムと同じリリスと呼ばれる生命体の源から生まれた、18番目の使徒  
他の使徒たちは、人の形を捨てた人類の別の可能性だった

・まごころを、君に

セフィロトの樹を描く場面

ここは、LCLの海 生命の源の海の中 ATフィールドを失った 自分の形を失った世界 どこまでが自分で どこからが他人なのかがわからない 曖昧な世界 どこまでも自分で どこにも自分がいなくなっている脆弱な世界 すべてがひとつになっているだけ

でも、これは違う

僕はもう一度会いたいと思った その時の気持ちは 本当だと思うから

生きていこうと思えば、どこだって天国になる

・破

この世界の理を超えた、新たな生命の誕生 代償として、古の生命は滅びる 15年前と同じ セカンドインパクトの続き、サードインパクトが始まる

・Q

生命とは本来、世界に合わせて自らを変えていく存在  
しかし、リリンは自らではなく、世界のほうを変えていく

・シン

あらゆる生命の種の保存 その守護のための半永久稼働可能な無人式全自動型の箱舟

加治にとって、補完計画の巻き添えで消えてしまう多様な生命体を自然なままこの世界に残すことが最重要であった

そのためには、可能な限りの生命の種を地球圏外に避難させる その計画実現を目指した

0に最も近い数値、シンクロ率 $\infty$

マイナス宇宙を我々の感覚機能では認知できない ゆえに LCL が知覚可能な仮想の世界を形成している

カヲル君は父さんと似てるんだ だから同じエヴァに乗っていたんだね

加治:それはあなたの幸せだったんです 渚司令 あなたが彼を選び、生命の書に名を書き連ねた

僕も、エヴァに乗らない生き方を選ぶよ 時間も世界も戻さない ただ、エヴァが無くて  
も良い世界に書き換えるだけだ 新しい、人が生きていける世界に 世界の新たな創  
世 ネオンジェネシス

碓ユイと碓ゲンドウが2人重なってネオンジェネシスを起こす場面

駅のホームに渚カヲルと綾波レイが2人でのいる場面

大人になった碓シンジが駅の階段を駆け上がる場面(そして碓シンジは現実の世界で  
生きる)

## ●エヴァンゲリオンの正体

・エヴァンゲリオンは、第一使徒アダムのコピー  
使徒と同等の存在を建造することで、対使徒に備えた

アダムとエヴァ(イブ)

・エヴァンゲリオン初号機だけは、唯一第二使徒リリスのコピー

・碓ゲンドウ≡渚カヲル説

渚カヲルは、碓ゲンドウにとっての理想の自分像であった

自分の弱さから全てを否定してシンジを遠ざける自分と、全てを肯定してただシンジの  
幸せだけを願うもうひとりの理想の自分

旧エヴァにおいて、碓ゲンドウはアダムの肉体を自らの手に移植した

新劇場版においては、旧エヴァにおけるアダムの胎児の役割をネブカドネザルの鍵が  
担い、それにより渚カヲルを第一使徒の座から引きずり降ろすことで、碓ゲンドウ自ら  
が第一使徒アダムの位置につき、神そのものとなり、人類補完計画を実行させようとし  
た

渚カヲルは、碓ゲンドウの遺伝子とアダムの遺伝子を掛け合わせて造られ、そこにアダ  
ムの魂を宿らせた可能性もある

碓ユイはエヴァンゲリオン初号機に取り込まれた

綾波レイは、碓ユイの遺伝子とアダムの遺伝子を掛け合わせて造られた。そしてリスの魂が宿っている。

つまり、碓ゲンドウは最初の男性アダム、碓ユイは最初の女性リスと同等の存在になったということになる。

そして最終的に、ネオンジェネシスを起こす場面にて両者は統合された。

## ●まとめ

使徒：地球の先住民

人類：使徒の後から地球にやってきて地球を支配

使徒は、使徒の手でインパクトを起こすことで人類を滅亡させ、地球を使徒のものにしたい。

※この場合、人類の魂は、行き場を失い放浪することとなる。

人類の秘密結社ゼーレは、人類の手でインパクトを起こした上で、人類補完計画を実現させたい。

※インパクトは、神が自らの意志により起こすことができる。

つまり、使徒と人類どちらが神となり地球を支配するか？の戦いであった。

一方、碓ゲンドウは、妻である碓ユイともう一度会いたい。そのために自身が神になりたい。

最終的に碓シンジは、この争いを終わらせ、全ての存在を救った後に、物語の世界から解脱した。

その過程において、碓シンジの心の成長が描かれている。

## 【クンダリニー・ヨーガのプロセスについて】

クンダリニー・ヨーガのプロセスについて感銘を受けたので、解説している動画の目次とその URL を載せたいと思います。

AmritaChannel より

### 導入

Step1 クンダリニーヨーガとは

Step2 エネルギーの蓄積

### 文献

【すべて分かる】クンダリニーヨーガのプロセス 基礎・準備編その1「クンダリニーヨーガとは」「エネルギーの蓄積」

<https://youtu.be/cjumkt3ICAs>

Step3 エネルギーの漏洩の防止 (性的な禁欲)

食事に関して

しゃべり過ぎ

肛門の緩み

目からの漏れ

気道の壁の破壊

### 文献

クンダリニー・エネルギーの漏洩の防止【クンダリニー・ヨーガのプロセス 基礎・準備編その2】

<https://youtu.be/dTzq4dE5sK4>

Step4 クンダリニー症候群

Step5 エネルギーの変換

Step6 バクティヨーガの必要性

### 文献

「クンダリニー症候群」「エネルギーの変換」【クンダリニー・ヨーガのプロセス 基礎・準備編その3】

<https://youtu.be/0ueOtsjhq5k>

チャクラとは

Step7 チャクラについて(ムラダーラ・チャクラ)

スワーディシュターナ・チャクラ

マニプーラ・チャクラ

アナーハタ・チャクラ

ヴィシュッダ・チャクラ

アージュニャー・チャクラ

サハスラーラー・チャクラ

チャクラの浄化

文献

チャクラ徹底解説【20分で分かるチャクラの性質・浄化・開発】【クンダリニー・ヨーガのプロセス 基礎・準備編その4】

<https://youtu.be/ergiOz70I7o>

Step8 クンダリニーヨーガの進み方

Step9 三つの気道

Step10 左気道の浄化と昇華

Step11 右気道の浄化と昇華

Step12 真ん中の浄化と昇華

文献

クンダリニーの上昇編その1「三つの気道の浄化」【クンダリニー・ヨーガのプロセス クンダリニーの上昇編その1】

<https://youtu.be/mVARIPMFbB8>

Step13 クンダリニーの上昇

Step14 三つの結節(グランティ)

Step15 ブラフマ結節の破壊

Step16 ヴィシュヌ結節の破壊

Step17 シヴァ結節の破壊

Step18 ブラフマランドラ

文献

クンダリニーの上昇編その2「クンダリニーの上昇」「三つの結節の破壊」「ブラフマランドラ」【クンダリニー・ヨーガのプロセス】

<https://youtu.be/qtdvasXGQb0>

Step19 クンダリニーを上昇させる方法

関連内容:逆転のアーサナ、ムドラー

文献

クンダリニーを上昇させる方法【クンダリニー・ヨーガのプロセス クンダリニーの上昇編その3】

<https://youtu.be/d-LULLL1j3I>

Step20 喜び

Step21 アムリタの発生

Step22 アムリタの下降と充満

Step23 軽安

文献

クンダリニー・ヨーガのプロセス アムリタ(不死の甘露)編「喜」「アムリタの発生と充満」

[https://youtu.be/v\\_XHY6JyGM](https://youtu.be/v_XHY6JyGM)

Step23 サマーディ

Step24 楽空無差別

Step25 生きながらにして死ぬ

Step26 化身の形成

Step27 まとめ

文献

クンダリニー・ヨーガのプロセス サマーディ・中央気道編「サマーディ」「楽空無差別」  
「化身の形成」

<https://youtu.be/j8yM4Q2oxA4>

【[旧記事]ヨーガ・スートラの内容について】

ヨーガ・スートラの内容に感銘を受けたので、解説している動画をベースに目次とそのURLを載せたいと思います。

AmritaChannel より

ヨーガとは心の作用を滅尽することである

5種類の心の作用

心の作用を滅尽する方法

「修習」

「離欲」

※関連内容: 四念処、慈悲の瞑想、徳、十二縁起

文献

ヨーガの原典『ヨーガスートラ』をわかりやすく解説【ヨーガの目的とは】【ヨーガにおいて最も大事なこと】【ヨーガをすることで得られるもの】「完全解説『ヨーガ・スートラ』(1)」

<https://youtu.be/2as1q25w3RY>

有想サマーディ

尋(ヴィタルカ)と伺(ヴィチャーラ)

仏教のサマーディとヨーガ・スートラのサマーディ

無想サマーディ

低い解脱のはまるな

サマーディに入る方法: 五根五力

サマーディに入る方法: 強い熱情

サマーディに入る方法: 自在神への祈念

サマーディに入る方法:聖音オーム  
ヨーガの障害

文献

「サマーディ(深い瞑想)の種類」「サマーディに入る方法」「熱意を高める方法」-【完全解説】ヨーガ・スートラ(2)

<https://youtu.be/EgdzNzgRius>

四無量心

呼吸法

内的感覚への集中

光明への集中

聖者への集中

睡眠中に得た叡智への集中

好ましいものへの集中

あらゆるものへの支配力

サマーディの定義

サヴィタルカ・サマーディ

ニルヴィタルカ・サマーディ

サヴィチャーラとニルヴィチャーラ

有種子サマーディ

真理に満たされた智慧

智慧のサンスカーラ

無種子サマーディ

文献

瞑想を深めていくための具体的方法 -【完全解説】ヨーガ・スートラ(3)

<https://youtu.be/ipn0W6YodPs>

クリヤー・ヨーガ

クリヤー・ヨーガの目的

五つの煩悩の

煩悩の田地

無明

我想

愛著と嫌悪

生命欲

心の逆転変【人はなぜこの世に生まれ、そしてどこに向かっているのか】

瞑想による除去

業遺存

カルマの法則

三苦

除去すべきもの

苦しみの原因

見られるもの

グナ

見るものと見られるもの

真我独存

七段階の最高の叡智の基盤

※関連内容:薫習、グナ

文献

「人はなぜこの世に生まれ、そしてどこに向かっているのか」「クリヤー・ヨーガの目的」

他\_【完全解説】ヨーガ・スートラ(4)

<https://youtu.be/GByEO-mwQyU>

不純正の破壊

アシュターンガヨーガ「ヨーガの八段階の修行」

ヤマ(禁戒)

大誓戒

ニヤマ(勸戒)

妄想に対する念想

アーサナ

プラーナーヤーマ(呼吸法)

第四の調気

プラティヤーハーラ(制感)

※関連内容:バガヴァッドギーター、蓮華座

文献

「ヤマ(禁戒)とニヤマ(勸戒)」「アーサナ」「プラーナーヤマ(呼吸法)」他\_【完全解説】ヨーガ・スートラ(5)

<https://youtu.be/axA562IZomI>

禁戒・勸戒のメリット

他を害さないことのメリット

誠実のメリット

不盗のメリット

梵行のメリット

不所有のメリット

清浄のメリット

知足のメリット

苦行のメリット

読誦のメリット

自在神への祈念のメリット

プラーナーヤマのメリット

※関連内容: 四念処、入菩提行論

文献

「禁戒と勸戒と呼吸法の驚くべきメリット」「過去生を思い出す方法」\_【完全解説】ヨーガ・スートラ(6)

<https://youtu.be/zjUbd00iRRo>

ダーラナー(集中)

ディヤーナ(瞑想)

サマーディ(三昧)

サンヤマ(綜制)

サンヤマ(綜制)から輝き出る智慧

より深奥に向かって

止滅転変

サマーディ転変

心の専念転変  
各種の転変

文献

瞑想の深まりの三段階のプロセス(サンヤマ)\_【完全解説】ヨーガ・スートラ(7)  
<https://youtu.be/CBliWZL-o6Y>

すべての生き物の声を理解する能力

宿命通

他心通

他心通の範囲

透明になる能力

自分の死期を知る能力

種々の力

超人的なパワー

遥か遠くのものを見通す能力

宇宙、星の配置、星の運行に精通する能力

体内の組織を知る能力

飢えと渴きを消す方法

心身の堅忍性

神霊を見る能力

すべてを知る能力

心を意識する能力

真我の叡智

関連内容:八正道、四無量心

文献

「他人の心を読む能力」「すべての生き物の声を理解する能力」「星の配置を知る能力」他\_【完全解説】ヨーガ・スートラ(8)  
<https://youtu.be/Sqm8UgBfluQ>

## 【ワイタハ族について】

●ワイタハ族(TOLAND VLOG チャンネル)より

故郷の星:龍の星、シリウス  
龍族の土地

ワイハタ族:銀龍の一族の子孫

はるか昔、龍の星シリウスから地球に様々な神々が降り立った  
そして、金龍族と銀龍族が降り立った  
ワイハタ族の祖先ロンゴマラエロアは、銀龍族の平和の女神  
ロンゴマラエロアから、ワイハタ族の伝承や伝統・習慣を教わった

地上に降り立った龍は人間の仲間に加わり、異種交配を繰り返すことで人間のあらゆる特徴を取り入れていった  
そして、心と秘められた記憶以外は人間と全く同じ存在になっていった

銀龍族は、降り立った当初はメソポタミア地域で暮らしていた  
やがてエジプトに移動した  
そしてアジアの島国を経由して、ニュージーランドにたどり着いた

全ての土地は神のものである  
個人のためのものではない

1986年のハレー彗星接近のタイミングから、伝承を世に広めても良いというお告げがあり、  
眠ってしまった龍族を目醒めさせていかなければいけないというそういう時代がやってきた  
全ての龍の長である金龍族が覚醒する必要がある

金龍族こそが日本人である

世界規模の変化といえる、次元上昇の 때가近いからこそ、目醒める必要がある  
そして母なる地球を救う必要がある

地球を元の状態に戻し、水に戻し、油田の開発をやめ、この状況を地球の内側から変える必要がある

まずは学ぶことから始め、人々がヒーリングを行い、祈りを捧げる日が来ることを願っている

まずは自分のハートを育む

セレモニーや瞑想をして、人々をコミュニケーションを取る  
友情や愛情を育んでいくことが重要

水のように生きることが大切

水のように流れに身を任せ、水のように考える

誰もよそ者ではない

何も所有しない

土地の全ては神様に貸していただいたもの

自分のものにしてはいけない

本来は何一つ自分のものではない

みんなと分け合うこと

文献:<https://youtu.be/TYWXZFYn9RY>

部族ごとの文化の違いは、違う星からやってきたという違い

シリウスで多量の有毒ガスが発生し、その影響でそこから去らなければならなくなり、地球にやってきた

この地球は制限が多く、物理的なもの・霊的なものと次元が分かれているが、シリウスはすべての次元が一つになっていてそこはワイタハ族のふるさと

シリウスには、ドラゴン族やヘビ族など、ほかの種族も存在する

ドラゴン族は、ムー大陸にも降り立ったが、沈んでしまった

ムーやアトランティスがあった時代に大洪水が起こり、それからニュージーランドや日本に分かれていった

メキシコや南アメリカにも降り立った  
ネイティブアメリカンやハワイの先住民族も元をたどれば龍族

へび族は、母系家族・女性的、父系家族・男性的と様々で、ドラゴン族は、母系家族のみ

へび族は男性(父系家族)が強い

インドやパキスタン人はへび族の血を強く継承している  
日本は母系の国

金龍族と銀龍族は、虹のドラゴンから生まれた

中国には一部がまだドラゴン族として存在している  
中国はかつて神から多くの知識・書物を授かっており、だから日本人は中国に学びに行っていた  
その情報は、すべてのドラゴン族に向けた情報だった

ドラゴン族に国境は一切なく、心で通じ合っている

1000年～1500年前までは、日本とニュージーランドに行き来があり、日本の古語で話のできた時代があった  
(大化の改新で日本語が大きく変わるタイミング)  
鎖国する前までは行き来があった 鎖国して途絶えてしまった

ニュージーランドから出発し、黒潮に乗って北上し、与那国島から日本の沖を通り、太平洋を渡ってカリフォルニアのほうに行き、南下して南米のほうに行き、イースターを通り、ニュージーランドに帰る

星の位置を頼りに航海する  
然るべき時期に風を読み、天気を読み、潮に乗って行った  
その際、その海流に乗ってクジラも回遊する  
クジラと共に回遊していく

与那国島で発見された巨石は神と話をする場所であり、祭事場であった

情報は与えすぎずに、それをきっかけに自分で気づくことが大事

まずはあなたの母親のおばあさんの名前を聞くこと

おばあさんの名前は秘密の鍵のようなもの

だからドラゴン族は母系家族

そういうものは母側の系統を通して継承されていく

文献:<https://youtu.be/YDynxlpmhel>